

シナリオ部分であるため非公開とする

【資料1】

<Rev. 3>

2023 年度
事業者防災訓練実施計画

2023. 12. 26

三菱原子燃料株式会社

1. 訓練計画概要

1.1 中期計画上の 2023 年度訓練の位置づけ

本訓練は、中期計画（2022 年度～2025 年度）の 2 年目の訓練にあたる。

昨年度の訓練ではシナリオ一部非開示の下、シナリオの多様化として、アンモニアガスの漏えい事象を複合災害として想定し取り組んだ。今年度の訓練においても、シナリオの多様化の一環として、

シナリオに関する部分であるため非公開とする

に重点的に取り組む。

1.2 訓練の目的

本訓練は「三菱原子燃料株式会社 原子力事業者防災業務計画 第 2 章 第 7 節」に基づき実施する総合訓練であり、原子力災害が発生した際、防災組織員がそれぞれに要求される技能を発揮し、迅速かつ適切な対応が取れるようにするためのものである。訓練は原子力災害対策指針に基づく警戒事象、原災法第 10 条特定事象及び第 15 条事象が発生したという想定により実施し、災害対応に関する基本能力の維持及び原子力緊急事態への対応能力を向上させることを目的とする。

また、前回の防災訓練で抽出された課題の改善策についての有効性を検証する。

1.3 主たる検証項目及び達成目標

- 【検証項目】原子力防災の現場活動能力向上及び適切な発生事象拡大防止措置
- 【達成目標】対策本部及び現場指揮所の判断・指示が適切に行われ、発生事象に対する拡大防止措置から収束に向けた計画策定に至るまで円滑^{※1}な活動を実施できること。

- 【検証項目】意志決定者の迅速かつ的確な EAL 判断
- 【達成目標】意思決定者は収集データの評価結果に基づき、迅速^{※2}かつ的確に EAL 判断を行い、判断根拠を含め、情報共有できること。

- 【検証項目】シナリオに関する部分であるため非公開とする
と対応手順の指示
- 【達成目標】シナリオに関する部分であるため非公開とする
緊急時対応を最短で達成できる活動手順を指示できること。

- 【検証項目】ERC 対応者（Webex による会議）の適時かつ正確な情報連絡

シナリオに関する部分であるため非公開とする

- 【検証項目】原子力事業者間協力協定に基づく適切な活動
- 【達成目標】シナリオに関する部分であるため非公開とする
できること。

※1：防災組織員各自が定められた役割に従い、正確かつ遅滞のない活動を行うこと

※2：特定事象が発生し、対策本部に情報が伝達されてから 1 分以内

2. 訓練実施日時及び対象施設

2.1 実施日時

2024年1月30日（火）13時30分～16時00分（予定）

2.2 対象施設

シナリオに関する部分であるため非公開とする

○緊急時対策所（以下「防災ルーム」という。）

3. 評価体制、参加者及び実施体制

3.1 実施体制

訓練は図1に示す体制により実施する。

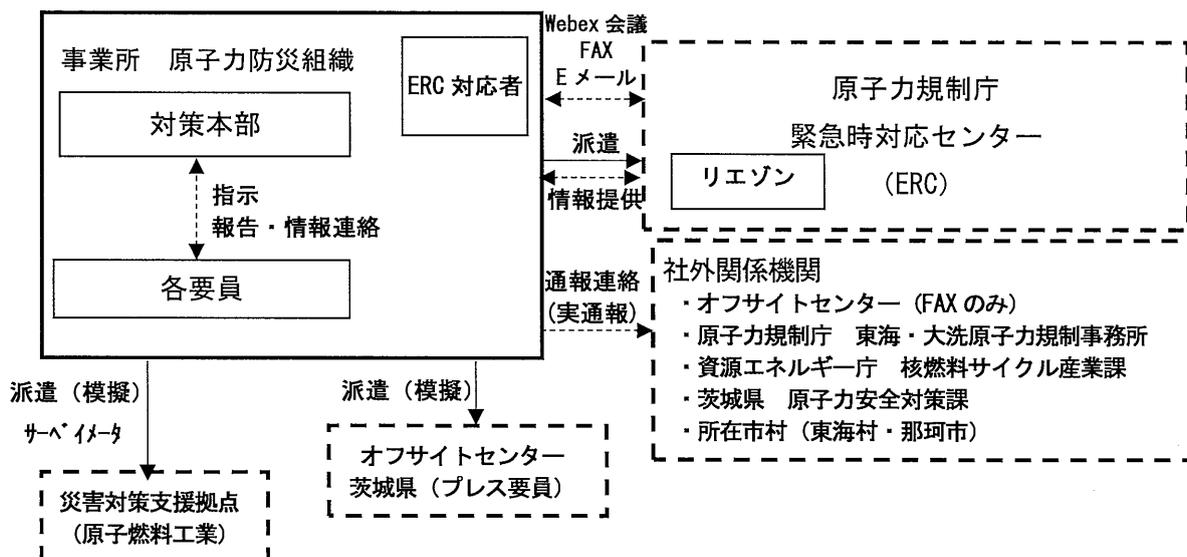


図1 訓練実施体制

3.2 評価体制

社内の防災組織員の中から訓練モニタ（以降「評価者」と称す。）を選出し、また他事業者より派遣された評価者により、評価シートを用いて課題の抽出を行う。なお、当該評価シートにて、訓練の達成目標を踏まえ設定した達成基準及びこれまでの訓練における改善事項についての評価を行う。

3.3 参加者（予定）

○参加者：プレーヤ：150名※、コントローラ：5名（※ 現場活動隊の1/3が出動可能としたもの）

○評価者：6名（社内3名、社外3名）

4. 訓練項目及び内容

シナリオに関する部分であるため非公開とする

シナリオに関する部分であるため非公開とする

5. 訓練想定（平日・休日、日中・夜間、施設運転状態、事象想定、時間スキップの有無等）

シナリオに関する部分であるため非公開とする

シナリオに関する部分であるため非公開とする

6. 訓練シナリオ案

別紙「【資料0】2023年度防災総合訓練シナリオ」参照

7. 前回までの訓練の課題に対する改善（対策）状況

<p>1</p>	<p><u>通信環境の不備</u> 【要改善点】 ○Webex を使用した ERC プラント班への情報提供において、訓練冒頭からマイクの音声聞き取りにくい旨の指摘を受け、電話回線を使用することになり、情報伝達を円滑に実施できなかった。 【原因】 ○マイクのボリュームが大きく、ERC 側の音声が聞き難くなってしまった。 ○代替通信機器である電話機の機能（音声の共有等）が充分でなかった。</p>	<p>【対策】 ○マイク及びアンプのボリューム調整並びに配置等の調整を行った。 ○通信環境の多様化として、ERC 対応ブースの電話機の更新、ヘッドセット及び電話会議システムを配備し、再構築した。 ○スムーズに通信機器を操作できるよう ERC 対応者に対して、要素訓練を複数回実施した。</p>
<p>2</p>	<p><u>情報伝達機器使用の習熟不足</u> 【要改善点】 ○書画装置を用いての説明が不慣れであり、事象の説明も発話ルールに基づく対応ができなかった。 【原因】 ○ERC 対応者の書画装置の使用について習熟が不足していた。受話器を持ちながらの書画装置の操作となったことも一因。 ○現場情報を記載した連絡票に時刻の情報が記載されていないものが多数あり、時刻を発話できないものがあった。 ○情報発信を急ぐあまり、時刻よりも内容を優先し発信することで「いつ」を失念した。</p>	<p>【対策】 ○書画装置近傍に書画装置使用にあたっての留意事項を掲示した。 ○書画装置の使用方法を ERC 対応者に周知し、練度の向上のため要素訓練を複数回実施した。 ○情報連絡票の情報記述欄に、時刻を記入する欄を設け、時刻が抜けないようにした。 ○ERC 対応者に対して、情報連絡票の全ての記載内容（説明者が理解した上で）を報告するよう周知し、要素訓練を複数回実施した。</p>
<p>3</p>	<p><u>情報伝達資料の活用不足</u> 【要改善点】 ○施設状況について、COP 等を使用しているの総括的な説明を速やかに実施できなかった。 ○放射線トレンドグラフの活用未実施 【原因】 ○対策グループにおいて現場から提供された情報の集約が遅れるなど用意していた</p>	<p>【対策】 ○「基本情報集約表」に代えて、改善した「情報連絡票」により、ERC 対応者、対策グループ及びその他の機能班に、同時に情報を提供できるようにした。 ○施設状況を一目で把握することができる COP に相当する「施設状況説明図」を用意した。</p>

	<p>「基本情報集約表」がうまく活用できなかった。</p> <p>○放射線データはまとめていたが、グラフは手書きでプロットしていたため、タイムリーな報告ができなかった。</p>	<p>○放射線データからトレンドグラフを自動作成するとともに、Webex の画面共有でタイムリーに ERC プラント班に報告できるようにした。</p> <p>○上記対策に関し、ERC 対応者に要素訓練を実施して練度の向上を図った。</p>
4	<p><u>情報伝達の遅れ</u></p> <p>【要改善点】</p> <p>①対策グループから ERC 対応者へタイムリーに情報を伝達することができなかった。</p> <p>②ERC プラント班へ SE/GE の情報を連絡するのが遅かった。</p> <p>③対応戦略も対策実施前に説明すべきであったが、実施後の説明となってしまった。</p> <p>【原因】</p> <p>①対策グループにおいて、現場から提供された情報の集約が遅れるなどで、用意していた「基本情報集約表」がうまく活用できなかった。</p> <p>②ERC 対応者が質問への回答に注力するあまり、すぐに伝えるべき情報を後回しにしてしまった。</p> <p>③対策グループにおいて対応戦略を立案していたが、グループ内の役割分担が明確でなかったため、タイムリーに ERC 対応者へ情報伝達できなかった。</p>	<p>【対策】</p> <p>①「情報連絡票」の改善及び ERC 対応補助者の配置等、情報伝達ルートを改善し、ERC 対応者へのタイムリーな情報伝達を実現できるようにした。</p> <p>②対策グループ、ERC 対応者及び ERC 対応補助者に対し、練度の向上のため、要素訓練を複数回実施した。</p> <p>③ERC 対応補助者の役割分担を整理し、対策グループから ERC 対応者へのタイムリーな情報伝達が可能となるようにした。</p>
5	<p><u>25 条報告の遅れ</u></p> <p>【要改善点】</p> <p>○25 条報告が大幅に遅れてしまった。</p> <p>【原因】</p> <p>○情報管理グループにおいて記事締め切り後に入った情報も加えようとし、FAX 文の追記/チェックを繰返したため、発信までに時間を要してしまった。</p>	<p>【対策】</p> <p>○記事締め切り後の情報は原則次報で報告すること及び 25 条報告は最長でも前報から 30 分以内に発出することを情報管理グループに周知徹底し、練度の向上のため、要素訓練を複数回実施した。</p>

6	<p><u>プレス発表の不慣れ</u></p> <p>【要改善点】 ○質問に対し、一部即答できないことがありプレス進行に時間を要した。</p> <p>【原因】 ○回答を優先すべく、回答確認に時間を要した。</p>	<p>【対策】 ○時間を要する回答であれば、回答を後に廻す旨伝え進行を妨げないよう周知した。</p>
7	<p>リエゾンの活動の不足</p> <p>【要改善点】 ○ERC 対応者に対する説明補助として2名を派遣したが、リエゾンから対策本部へ問い合わせる等、積極的な活動ができなかった。</p> <p>【原因】 ○派遣したリエゾンへの役割分担の周知が不十分であった。 ○書画装置に使用した資料の印刷に時間を要してしまった。</p>	<p>【対策】 ○リエゾンとして派遣する人数と役割分担及び情報共有手段について、再検討を行う。</p>
8	<p>戦略フローの機能不足</p> <p>【要改善点】 ○戦略フローにより、個々の事故収束対応戦略は説明したが、現状のフローでは、全体としての対策の進捗状況が見える状況ではないため、これを俯瞰できるよう改善が必要である。</p> <p>【原因】 ○現戦略フローは個々の発生事象、判断、対策等の繋がりを説明するのには適しているが、全体の対策の進捗状況を把握するには、適していない。</p>	<p>【対策】 ○全体を俯瞰できるように、現戦略シートの改善、あるいはCOPによる記述を加える等、改善を行う。</p>
9	<p>対策本部における方針決定・指示等の活動の不足</p> <p>【要改善点】 ○対策本部における応急対策、復旧計画等の方針決定・指示等の活動が不足していた。</p> <p>【原因】</p>	<p>【対策】 ○対策本部は、現場からの情報によって、適切かつ確実な戦略を計画する必要があるため、情報連絡票以外にも必要に応じ、口頭による意思疎通</p>

	<p>○情報の共有は情報連絡票により改善されたが、一方通行的となるところもあり、対策本部の意思決定、指揮命令等の過程が不明確であった。</p>	<p>も併用する。</p> <p>○重要な方針を決定する場合は、必要に応じて関係者を集め、協議による意思決定と指示を行うよう周知し、要素訓練により確認を行う。</p>
10	<p>ERC と共有すべき事項の不足</p> <p>【要改善点】</p> <p>○異常発生箇所や応急対策に関し、一部報告抜けがあり、体系的な説明ができていなかった。</p>	<p>【原因】</p> <p>○共有すべき観点（異常の状況、進展予測、対応の準備状況、実施状況）の周知が不足していた。</p>

8. ERC プラント班との情報共有に用いる資料・様式

戦略シート及び適宜 ERC 書架内の資料（9. 項リスト参照）を用いて情報共有を行う。

9. R5 年度の訓練等を踏まえた ERC 書架内の資料整備状況（資料リスト）

R5 年 12 月現在の「ERC 保管資料一覧」を以下に示す。

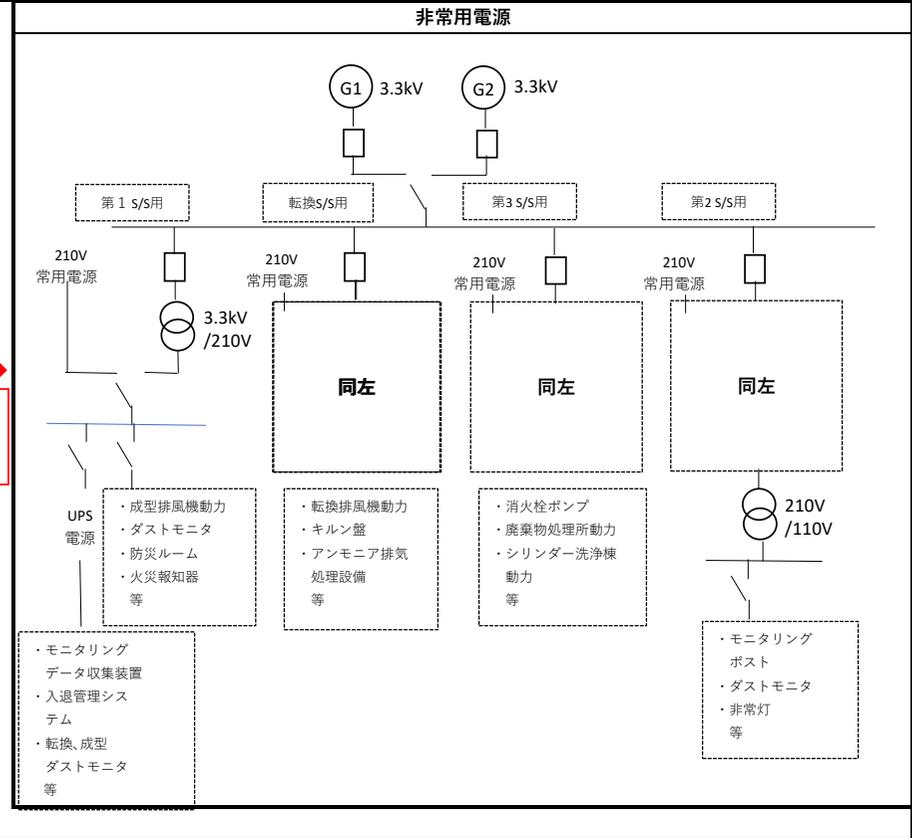
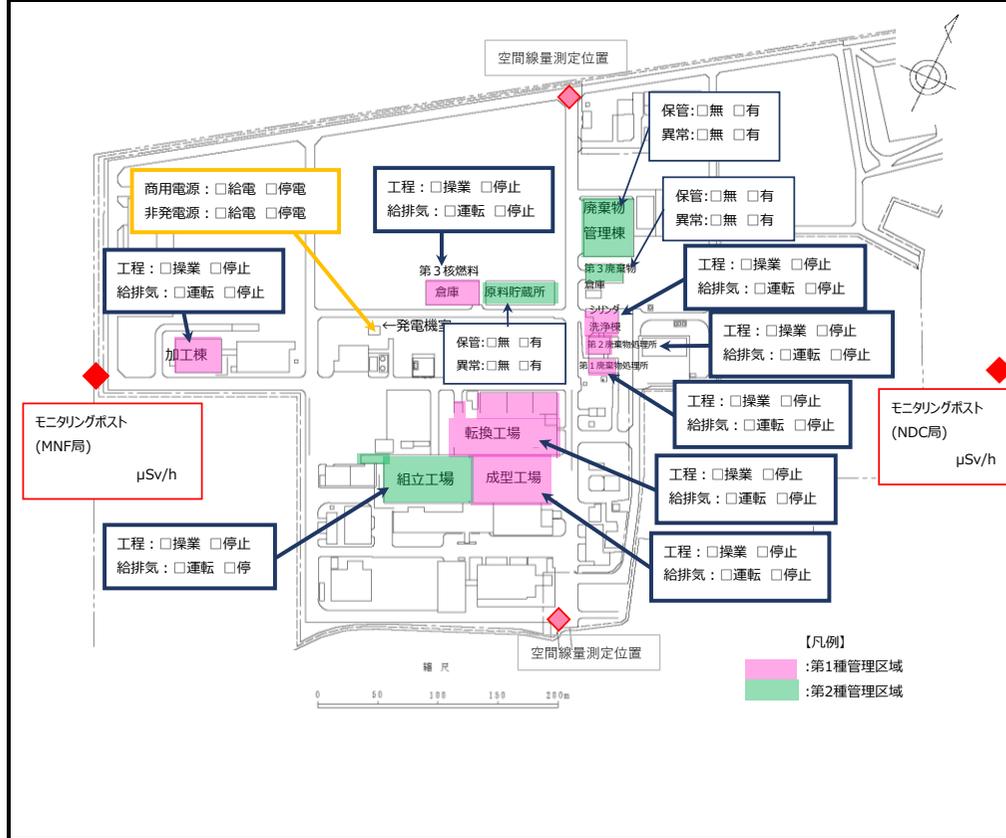
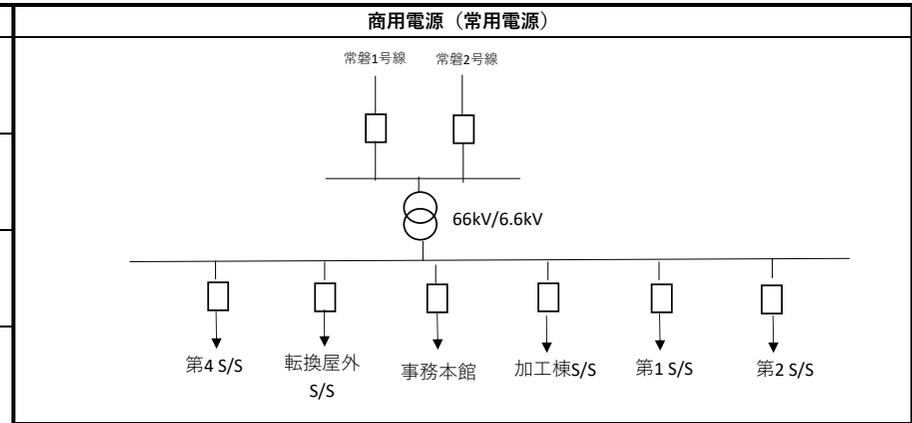
ERC 保管資料一覧

分類	No.	資料項目	有/無	資料名
1. 施設周辺等	1-1	施設付近概要図	○	事業所周辺図
	1-2	構内図	○	敷地内建物配置図
	1-3	敷地内の放射線測定設備（モニタリングポスト等）配置図	○	排気口及び排水口、外部放射線による線量当量測定点、空間線量率測定点並びに気象観測点の位置説明図
	1-4	気象観測装置設置場所	○	
2. 主要建屋平面図	2-1	各建屋平面図、断面図	○	各部屋配置図
	2-2	建屋内の放射線測定設備（エリアモニタ等）配置図	○	・エリアモニタ配置図 ・エアスニファ配置図
	2-3	所内地震検知・観測点	○	所内地震検知・観測点図
3. 各種工程・系統概要等	3-1	主要工程・主要系統・主要設備の概略図	○	主要工程プロセスフロー、概略系統図（設備詳細は新規施設工認にて）
	3-2	安全保護系ロジック一覧表	○	安全機能を有する施設の安全機能一覧
	3-3	排気・排水系統図	○	気体廃棄設備、液体廃棄設備及び非常用電源設備の主要系統図
	3-4	施設・工程の状況	○	施設状況説明図
4. 主要事象の対応フロー、手順	4-1	放射性物質の放出対応手順	○	・戦略フロー ・緊急時対応要領（別冊②）
	4-2	臨界事故時	○	臨界事故時の対応要領
	4-3	UF ₆ 漏えい事象（加工）	○	室内及び建物外への UF ₆ 漏えいに係る対処
		ウラン加工施設においては設計基準事故、重大事故にいたるおそれがある事故の対応フロー		
	4-4	重大事故等対処に係る系統図（臨界、蒸発乾固、水素爆発、火災・爆発、SFP 冷却、放射性物質の漏えい）	×	—（臨界については 4-2 参照）
	4-5	重大事故等対処に係る体制図	○	防災組織図
	4-6	重大事故等に対する手順書（フロー）	○	UF ₆ 漏えい事象に係る対応フロー図
	4-7	重大事故等対処設備一覧、設置場所	○	・防災資機材一覧 ・事故時の活動拠点、資機材保管場所
	4-8	設計基準事故想定	○	事業許可設計基準事故に関する記載の抜粋要約
4-9	EAL 一覧	○	EAL（緊急時活動レベル）一覧表	

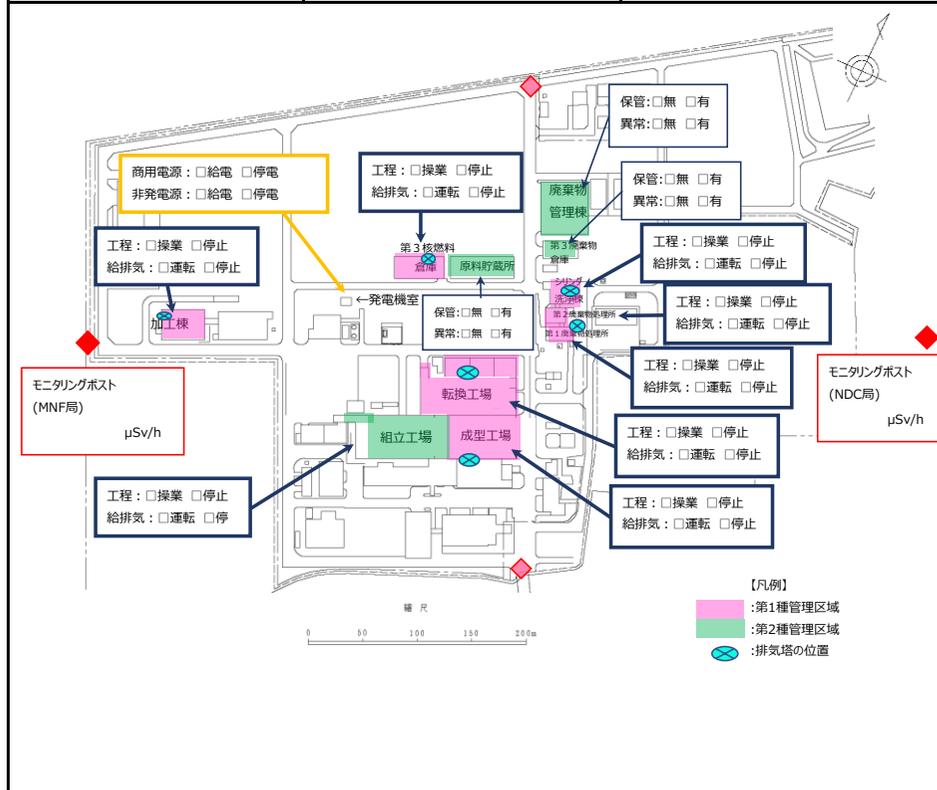
施設の状況 (月 日 時 分の状況) 1/2

【資料2】

負 庄	電 源	その他
時 分	時 分	時 分
時 分	時 分	時 分
時 分	時 分	時 分
時 分	時 分	時 分



()工場ダストモニタ発報	()工場排風機停止予定	その他	ダストモニタ発報設定値/通報基準値/放出停止の概念
時 分	時 分	時 分	<p>(発報設定時/通報基準値)</p> <p>転換工場 (7/80 cps) 成型工場 (7/75 cps) 第1廃棄物処理所 (9/1172.4 cps) シリンダ洗浄棟 (9/300 cps) 加工棟 (7/300 cps) 第3核燃料倉庫 (9/444.4 cps)</p>
SE02/GE02予測時刻	時 分	時 分	
時 分	時 分	時 分	
時 分	時 分	時 分	



【排気系統の基本構成】

<局所排気系> 装置 → 弁 → 排気塔

<室内排気系> 弁 → 排気塔

【転換工場】
 <局所排気系> 加工室×7系統(21E,23E~26E,31E)、廃棄物処理室×1系統(27E)、除染室×1系統(38E)、分析室×2系統(28E,33E)
 <室内排気系> 加工室×2系統(14RE,,15RE)、廃棄物処理室×2系統(19E,30E)、分析室×1系統(29E)、その他×5系統

【成型工場】
 <局所排気系> 燃料棒溶接室×2(25V)、ペレット加工室×5(10~17V,18~20RV)、放管棟×2(37V,EF3)
 <室内排気系> 燃料棒溶接室×1(26RV,18~20RV,)、ペレット加工室×3(10~13V,18~20RV)、放管棟×1(38RV)、その他×3

【加工棟】
 <局所排気系> 燃料棒溶接室×1、ペレット加工室×1、焼結室×1
 <室内排気系> 燃料棒溶接室×1、ペレット加工室×1、焼結室×1、ペレット貯蔵室×1

【第1廃棄物処理所】
 <局所排気系> 第1廃棄物処理所×1
 <室内排気系> 第1廃棄物処理所×1

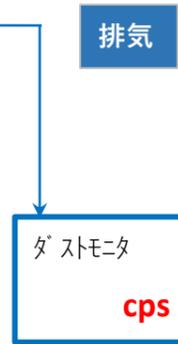
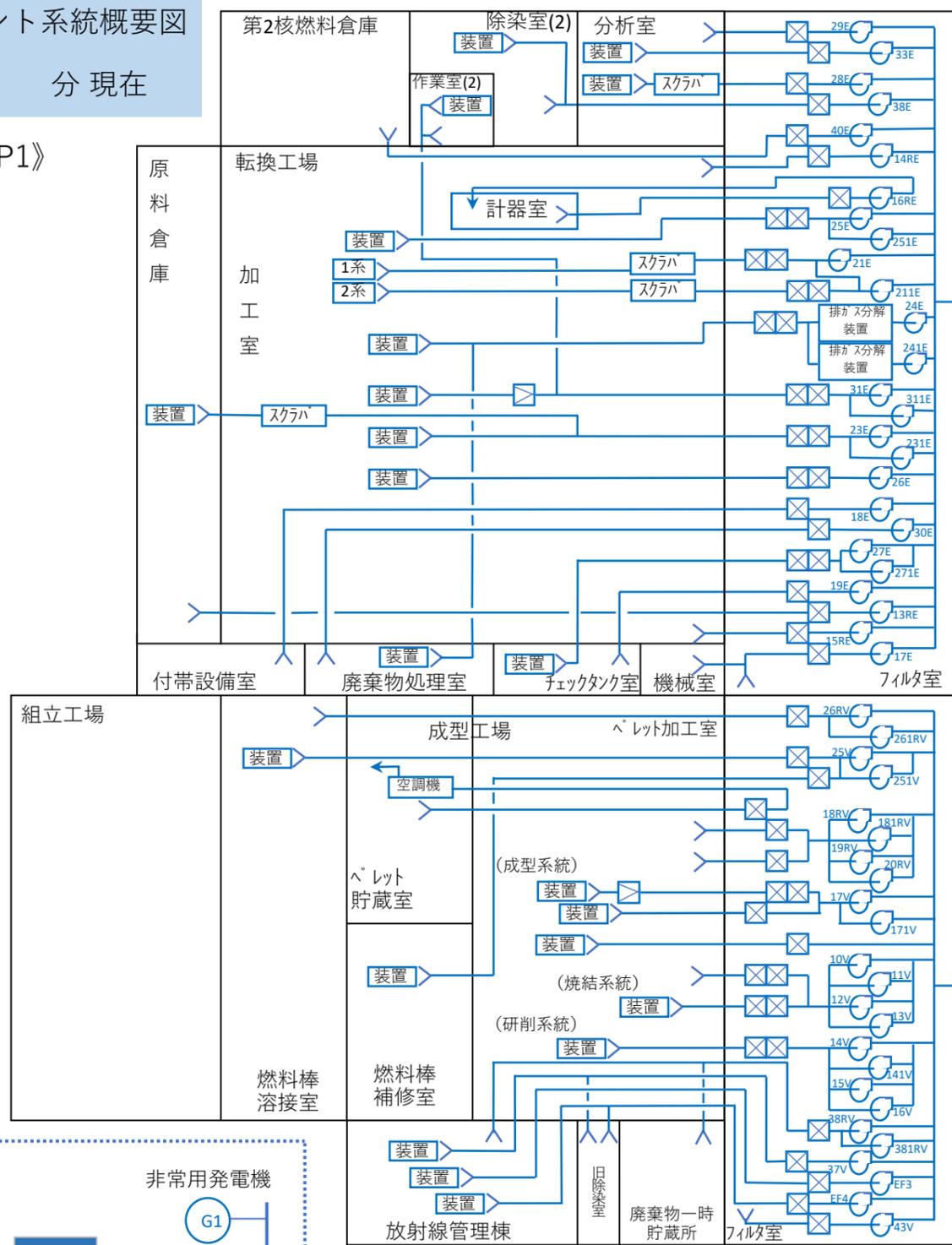
【シリンダ洗浄棟及び第2廃棄物処理所】
 <局所排気系> シリンダ洗浄棟×1、第2廃棄物処理所×1
 <室内排気系> シリンダ洗浄棟×1、ペレット加工室×1、焼結室×1、ペレット貯蔵室×1

【第3核燃料倉庫】
 <局所排気系> 作業室(1)×1
 <室内排気系> 貯蔵室(1)(2)×1、作業室(1)×1

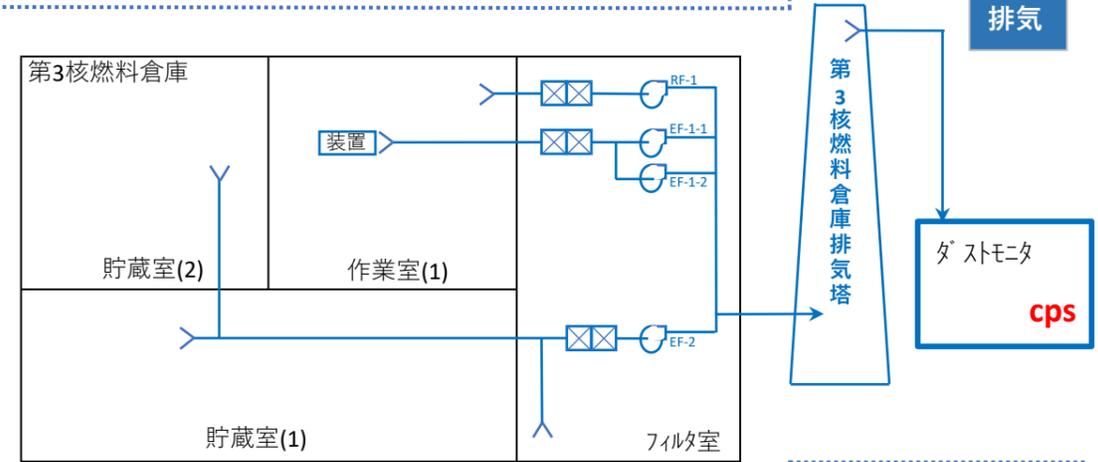
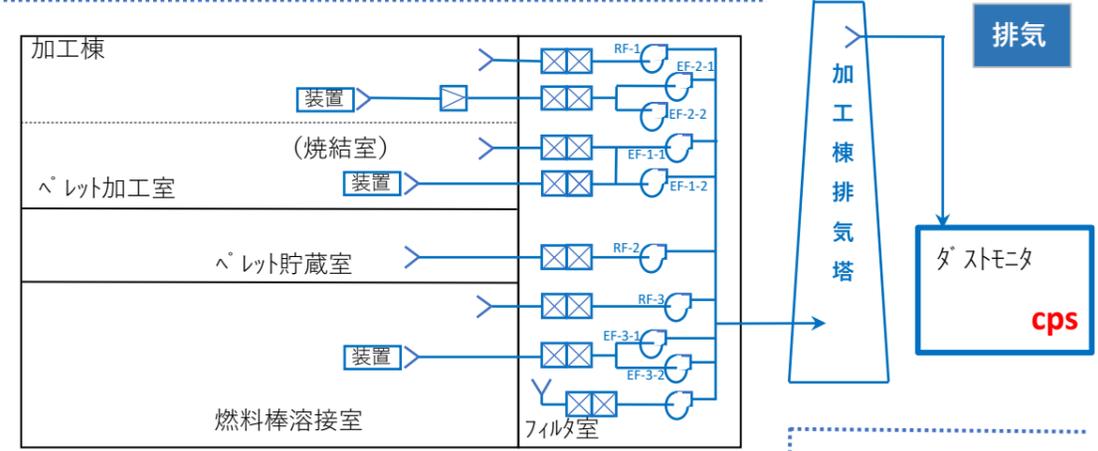
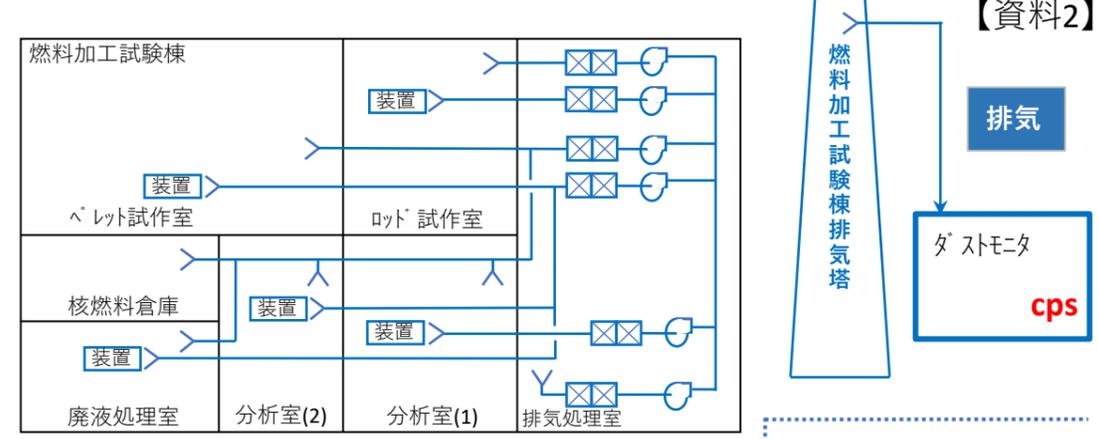
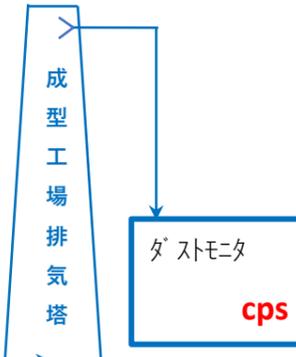
プラント系統概要図

時 分 現在

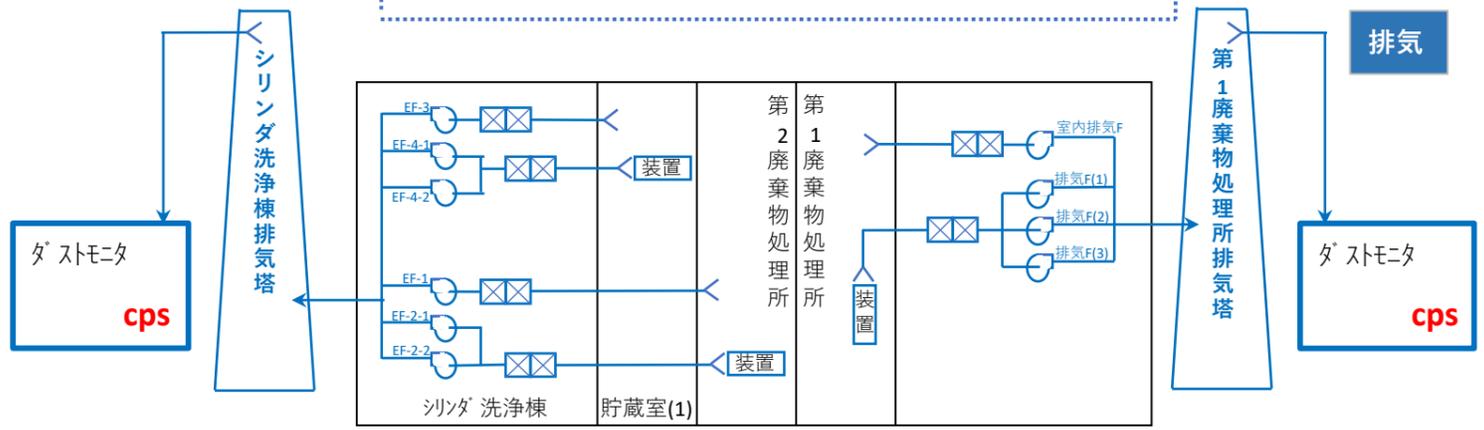
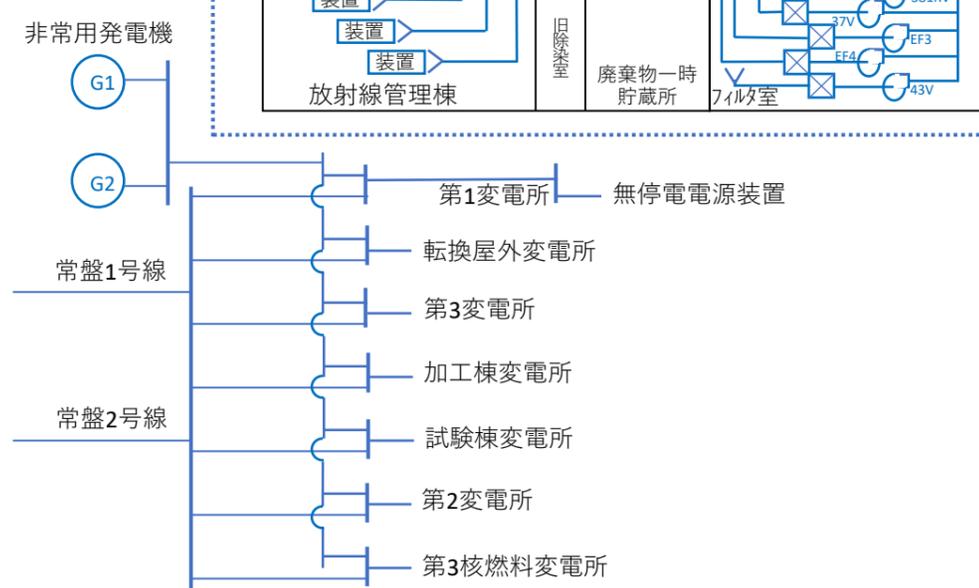
《COP1》



- 凡例
- 運転中
 - 停止中
 - 点検中



電源



【資料2】

排気

ダストモニタ cps

排気

ダストモニタ cps

排気

ダストモニタ cps

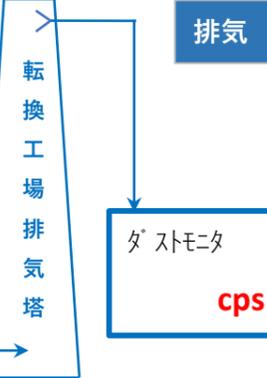
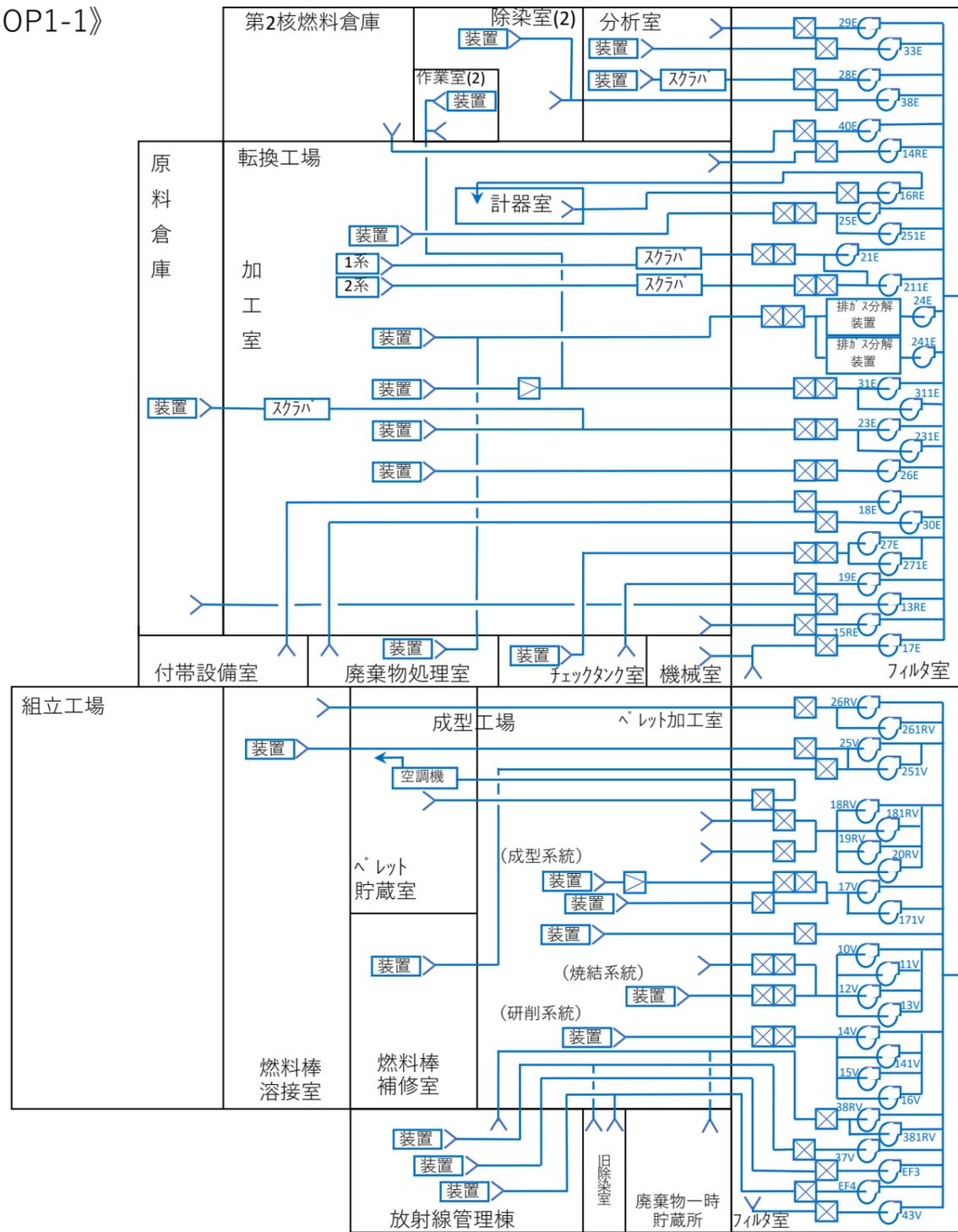
排気

ダストモニタ cps

転換・成型工場状況

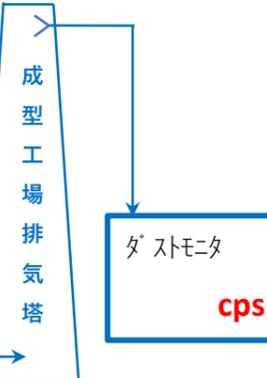
時 分 現在

《COP1-1》



エリア モニター	CH1	μSv/h
	CH2	μSv/h

- 凡例
- 運転中
 - 停止中
 - 点検中



エリア モニター	CH3	μSv/h
	CH4	μSv/h
	CH5	μSv/h
	CH6	μSv/h

止める	転換工場		成型工場
	1系	2系	

閉じ込める	排気ファン運転状況		閉じ込める
	ファン名	稼働状況	
転換工場	17E(フィルタ室・機械室)	非常扉密閉 (目張り施工)	
	18E(付帯設備室)	転換1-1	
	13RE(原料倉庫)	転換1-2	
	14RE(転換加工室)	転換1-3(シャッター)	
	23E(原料倉庫・転換加工室装置)	転換4	
	231E(原料倉庫・転換加工室装置)	転換5	
	24E(転換加工室装置)	第2核燃倉庫	
	241E(転換加工室装置)	除染室(2)ドア	
	21E(転換皇室1系)	除染室(2)シャッター	
	211E(転換皇室2系)	分析1	
	31E(転換加工室,作業室装置)	分析物品搬出入口	
	311E(転換加工室,作業室装置)		
	25E(転換加工室装置)		
	251E(転換加工室装置)		
	26E(転換加工室装置)		
15RE(転換加工室)			
30E(廃棄物処理室)			
19E(チェックタンク室)			
27E(チェックタンク室装置)			
271E(チェックタンク室装置)			
16RE(計器室)			
40E(第2核燃料倉庫)			
38E(除染室(2),装置)			
29E(分析室)			
28E(分析室装置)			
33E(分析室装置)			
成型工場	26RV(燃料棒溶接室)	非常扉密閉 (目張り施工)	
	261RV(燃料棒溶接室)	成型1	
	25(燃料棒溶接室・補修室装置)	成型2	
	251V(燃料棒溶接室・補修室装置)	成型3	
	18RV(へレット加工室)	成型工作室	
	181RV(へレット加工室)	廃棄物一時貯蔵所	
	19RV(へレット加工室)	洗濯室物品搬入口	
	20RV(へレット加工室)	来客更衣室通常出入口	
	17V(組成型・成型系統装置)	チェーフ搬入口	
	171V(組成型・成型系統装置)	溶接1	
	10V(焼結系統・装置)	溶接2	
	12V(焼結系統・装置)		
	13V(焼結系統・装置)		
	14V(研削系統装置)		
	141V(研削系統装置)		
15V(研削系統装置)			
16V(研削系統装置)			
38RV(放射線管理棟・廃棄物一時貯蔵所)			
381RV(放射線管理棟・廃棄物一時貯蔵所)			
37V(放射線管理棟装置)			
EF3(放射線管理棟装置)			
EF4(旧除染室(1))			
43V(フィルタ室)			

電源	外部電源	常盤1号線	停止中	非常用発電機	1号発電機	点検中	無停電電源	使用中
		常盤2号線	停止中		2号発電機	停止中		

モニタリングポスト	MP - MNF局	μGy/h
	MP - NDC局	μGy/h

負傷者の有無	無
--------	---

設備状況シート

	設 備			完了（復旧） 予定時刻		自由記述（事象概要等） 使用準備が完了した設備については欄内へ 【完了】と記載する
	カテゴリ	名 称	使用 可否	MM/DD	HH:MM	
対 応	放水	消火栓ポンプ				
		可搬消防ポンプ1号				
		可搬消防ポンプ2号				
	電源	常盤1号線				
		常盤2号線				
		非常用発電機G1				
		非常用発電機G2				
		無停電電源装置				
	建 屋 ・ 装 置 成 型 工 場 排 気 系	26RV(燃料棒溶接室)				
		261RV(燃料棒溶接室)				
		25(燃料棒溶接室・補修室装置)				
		251V(燃料棒溶接室・補修室装置)				
		18RV(へレット加工室)				
		181RV(へレット加工室)				
		19RV(へレット加工室)				
		20RV(へレット加工室)				
		17V(粗成型・成型系統装置)				
		171V(粗成型・成型系統装置)				
		10V(焼結系統・装置)				
		11V(焼結系統・装置)				
		12V(焼結系統・装置)				
		13V(焼結系統・装置)				
		14V(研削系統装置)				
		141V(研削系統装置)				
		15V(研削系統装置)				
		16V(研削系統装置)				
		38RV(放射線管理棟・廃棄物一時貯蔵所)				
		381RV(放射線管理棟・廃棄物一時貯蔵所)				
	37V(放射線管理棟装置)					
	EF3(放射線管理棟装置)					
EF4(旧除染室(1))						
43V(フィルタ室)						

対象設備：成型工場

*準備開始中だが、時刻確認中の場合、また使用開始しているが時刻確認中の場合は「○」を記載する

目的	環境への影響を最小限に抑える
目標	EAL判断、ウランの放出停止、建物閉込め機能維持、屋外での汚染拡大防止、復旧

カテゴリ	優先順位	対応手順	準備開始*	完了予測	使用開始*	詳細情報			
電源	1					【工場内】			
	2					放射性物質異常放出 実績時刻	放射性物質異常放出 停止予測時刻	放射性物質異常放出 停止実績時刻	
	3								
	【備考】								
異常放出停止	1					【工場屋外】			
	2					放射性物質による 汚染有無確認 実績時刻	放射性物質による 汚染が確認された 場合の措置	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 予測時刻	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 実績時刻
	3					放射性物質による 汚染箇所の除染開始 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染開始 実績時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 実績時刻
	【備考】								
汚染拡大防止	1					【敷地境界内】			
	2					放射性物質による 汚染有無確認 実績時刻	放射性物質による 汚染が確認された 場合の措置	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 予測時刻	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 実績時刻
	3					放射性物質による 汚染箇所の除染開始 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染開始 実績時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 実績時刻
	【備考】								
その他	1					【敷地境界外】			
	2					放射性物質による 汚染有無確認 実績時刻	放射性物質による 汚染が確認された 場合の措置	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 予測時刻	放射性物質による 汚染拡大防止措置 完了 実績時刻
	3					放射性物質による 汚染箇所の除染開始 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染開始 実績時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 予測時刻	放射性物質による 汚染箇所の除染完了 実績時刻
	【備考】								

対象設備：成型工場

*準備開始中だが、時刻確認中の場合、また使用開始しているが時刻確認中の場合は「○」を記載する

目的	火災の影響を最小限に抑える
目標	EAL判断、火災鎮火

カテゴリ	優先順位	対応手順	準備	完了 予測時刻	完了 実時刻	詳細情報						
						発生時刻	発災場所		(管理区域内)			
消火作業	1					消火器による 初期消火 開始時刻	消火器による 初期消火 成功時刻	消火器による 初期消火 失敗時刻				
	2											
	3											
	【備考】											
延焼防止	1					負傷者の 有無	延焼の可能性		可燃物の 除去の可否			
	2											
	3											
	【備考】											
その他	1					放水消火の 必要性	消火栓からの 消火の場合		消火開始 予測時刻		消火開始 実時刻	
	2											
	3											
	【備考】											
						可搬消防ポンプ からの消火の場合		消火開始 予測時刻		消火開始 実時刻		
						消火栓+ 可搬消防ポンプ からの消火の場合		消火開始 予測時刻		消火開始 実時刻		

火災原因（消防による）

汚染・被ばくの 可能性
戦略方針シート (汚染・被ばく)へ

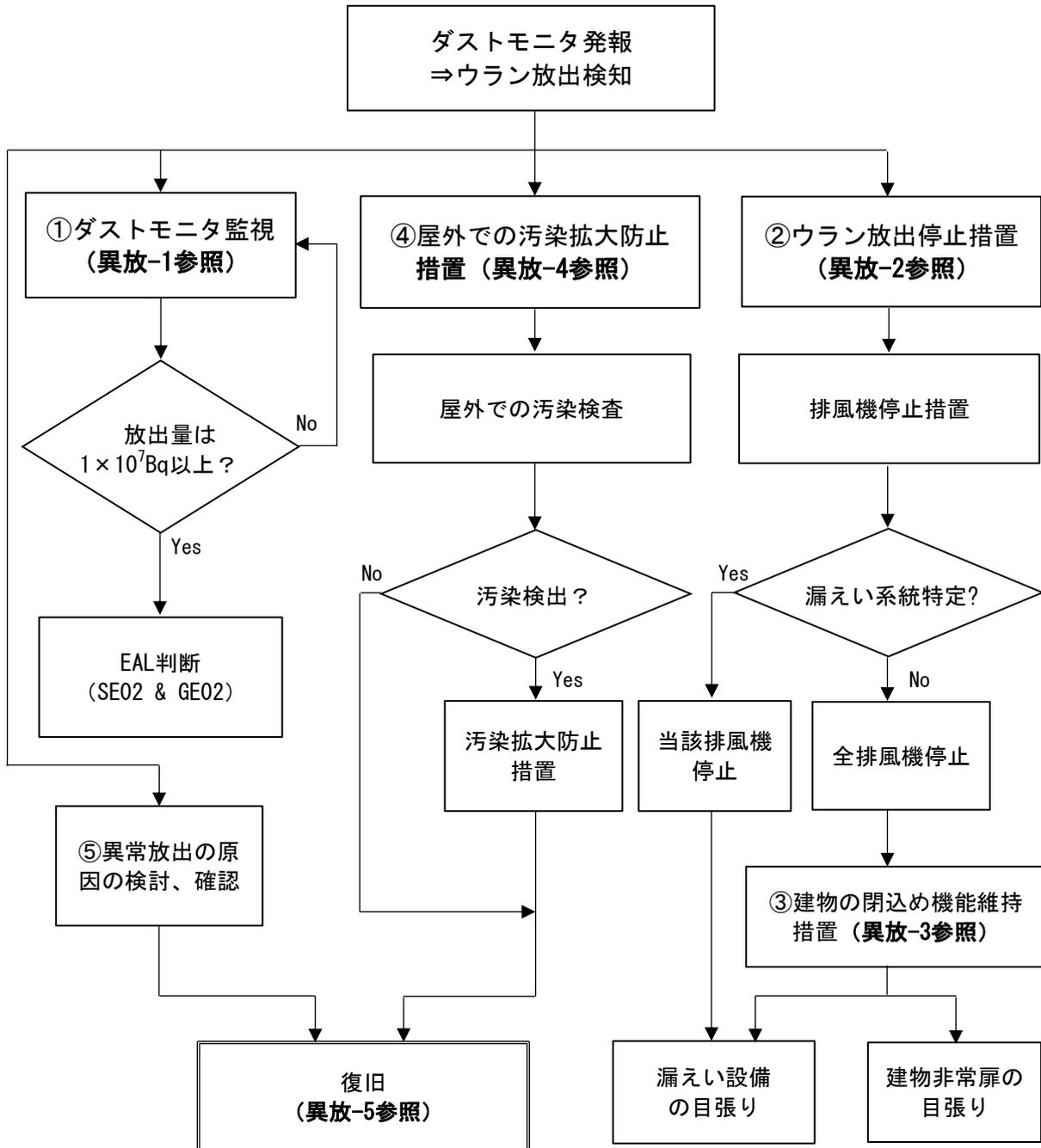
放射性物質の 放出の可能性
戦略方針シート (異常放出)へ

鎮圧 予測時刻	鎮圧 実時刻

鎮火 予測時刻	鎮火 実時刻

事故収束戦略フロー		No.	異放-0
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	全体フロー
目的	環境への影響を最小限に抑える		
目標	EAL判断、ウランの放出停止、建物閉込め機能維持、屋外での汚染拡大防止、復旧		

※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること



【備考】

放出停止措置と建物の閉込め機能維持は同時進行で実施する。

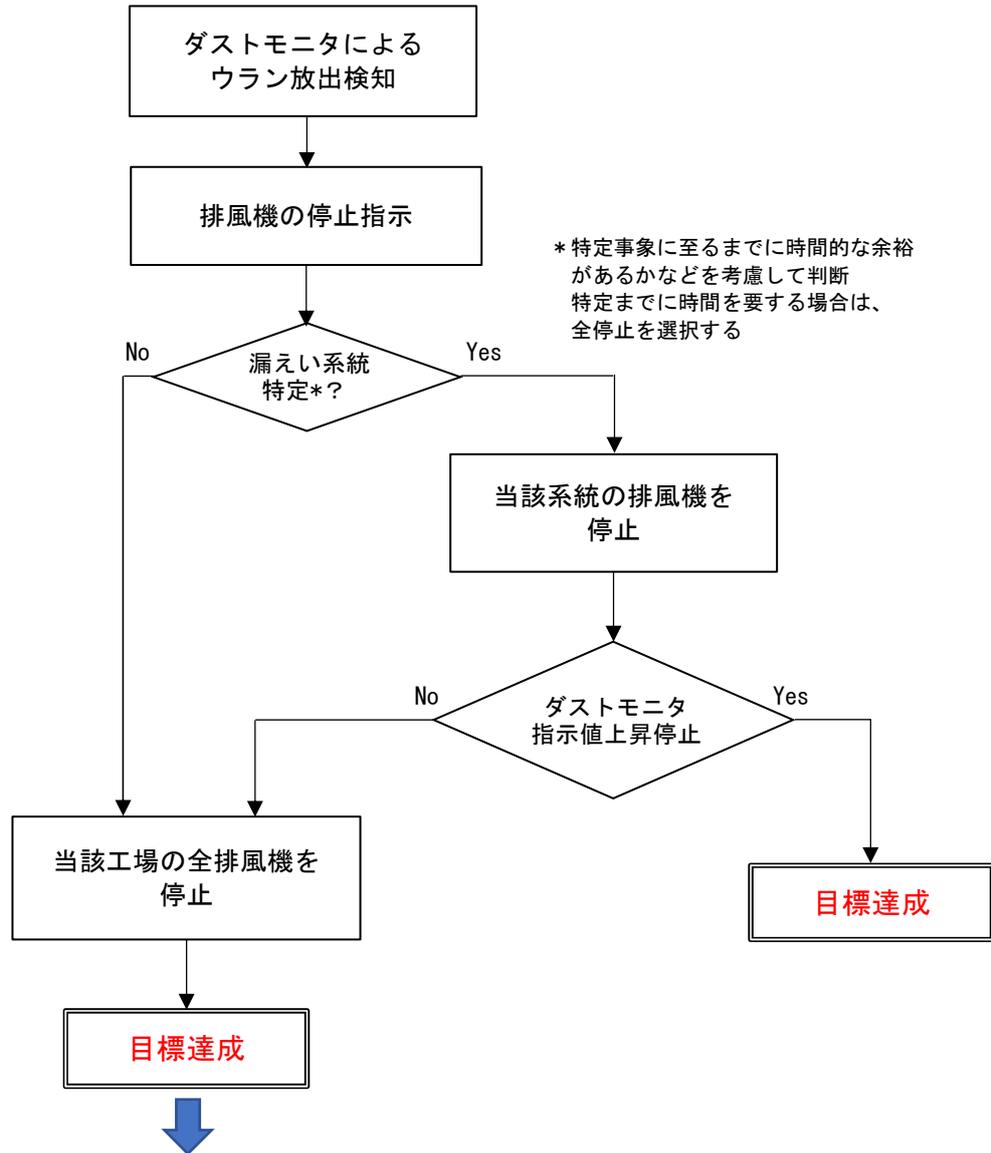
事故収束戦略フロー			No.	異放-1-1							
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	EAL判断								
目的	EALを判断する										
目標	ダストモニタ測定値からウランの放出量を測定監視する										
<p>1. ダストモニタ計数率（転換工場・成型工場）←いずれかを「○」で囲む</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td rowspan="2">通報基準 (SE02&GE02)</td> <td>転換工場</td> <td>80 cps</td> <td>1×10^7 Bq</td> </tr> <tr> <td>成型工場</td> <td>75 cps</td> <td>1×10^7 Bq</td> </tr> </table> <p>※ダストモニタ計数率から以下①～③を算出する場合、「『防災組織』防災組織活動01新規作成マニュアル類『ウラン放出量算出要領』異常放出（創業時）ダストモニタ指示値→線量・放出量計算シート2019」により算出すること。 ①放出ウラン量、②敷地境界放射能濃度、③敷地境界での1日の被ばく線量</p>					通報基準 (SE02&GE02)	転換工場	80 cps	1×10^7 Bq	成型工場	75 cps	1×10^7 Bq
通報基準 (SE02&GE02)	転換工場	80 cps	1×10^7 Bq								
	成型工場	75 cps	1×10^7 Bq								
【備考】 計数率をプロットすることにより、通報基準に達する時刻を予測する。											

事故収束戦略フロー		No.	異放-1-2										
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	EAL判断										
目的	EALを判断する												
目標	ダストモニタ測定値からウランの放出量を測定監視する												
↓ いずれかを「○」で囲む													
1. ダストモニタ計数率（加工棟、シリンダ洗浄棟、第3核燃料倉庫）													
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 10px;">CPS</div> </div>													
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">通報基準 (SE02&GE02)</td> <td style="text-align: center;">加工棟</td> <td style="text-align: center;">300.0cps</td> <td style="text-align: center;">1×10^7 Bq</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">シリンダ洗浄棟</td> <td style="text-align: center;">300.0cps</td> <td style="text-align: center;">1×10^7 Bq</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第3核燃料倉庫</td> <td style="text-align: center;">444.4cps</td> <td style="text-align: center;">1×10^7 Bq</td> </tr> </table>				通報基準 (SE02&GE02)	加工棟	300.0cps	1×10^7 Bq	シリンダ洗浄棟	300.0cps	1×10^7 Bq	第3核燃料倉庫	444.4cps	1×10^7 Bq
通報基準 (SE02&GE02)	加工棟	300.0cps	1×10^7 Bq										
	シリンダ洗浄棟	300.0cps	1×10^7 Bq										
	第3核燃料倉庫	444.4cps	1×10^7 Bq										
<p>※ダストモニタ計数率から以下①～③を算出する場合、「¥¥防災組織¥防災組織活動¥01新規作成マニュアル類¥ウラン放出量算出要領¥異常放出（創業時）ダストモニタ指示値→線量・放出量計算シート2019」により算出すること。</p> <p>①放出ウラン量、②敷地境界放射能濃度、③敷地境界での1日の被ばく線量</p>													
【備考】 計数率をプロットすることにより、通報基準に達する時刻を予測する。													

事故収束戦略フロー			No.	異放-1-3					
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	EAL判断						
目的	EALを判断する								
目標	ダストモニタ測定値からウランの放出量を測定監視する								
<p>1. ダストモニタ計数率（第1廃棄物処理所）</p> <p>The graph displays a grid for plotting dust monitor counting rate (CPS) over time (minutes). The vertical axis (CPS) has major ticks every 200 units from 0 to 1200. The horizontal axis (minutes) has major ticks every 2 units from 0 to 20. A red dashed horizontal line is drawn across the grid at the 1172.4 CPS level, with a label '第1廃棄物処理所' pointing to it.</p>									
<table border="1"> <tr> <td>通報基準 (SE02&GE02)</td> <td>第1廃棄物処理所</td> <td>1172.4cps</td> <td>1×10^7</td> <td>Bq</td> </tr> </table>					通報基準 (SE02&GE02)	第1廃棄物処理所	1172.4cps	1×10^7	Bq
通報基準 (SE02&GE02)	第1廃棄物処理所	1172.4cps	1×10^7	Bq					
<p>※ダストモニタ計数率から以下①～③を算出する場合、「¥P¥防災組織¥防災組織活動¥01新規作成マニュアル類¥ウラン放出量算出要領¥異常放出（創業時）ダストモニタ指示値→線量・放出量計算シート2019」により算出すること。 ①放出ウラン量、②敷地境界放射能濃度、③敷地境界での1日の被ばく線量</p>									
<p>【備考】 計数率をプロットすることにより、通報基準に達する時刻を予測する。</p>									

事故収束戦略フロー		No.	異放-2
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	ウラン放出停止措置
目的	排気塔からの放射性物質の放出を停止させる		
目標	放射性物質によるダストモニタの指示値の上昇が停止する		

※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること



* 特定事象に至るまでに時間的な余裕があるかなどを考慮して判断
特定までに時間を要する場合は、
全停止を選択する

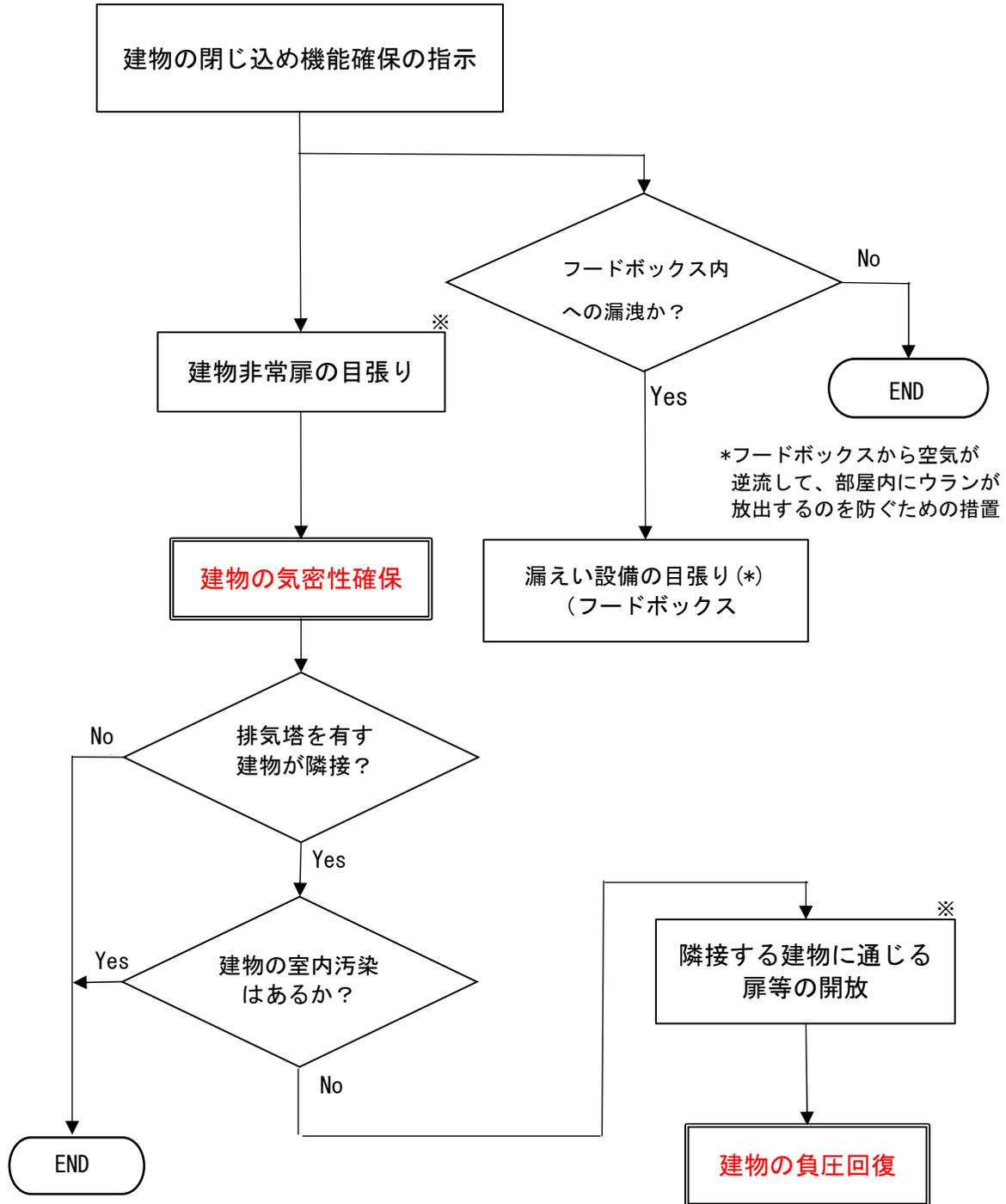
○ 建物の負圧の維持ができないため
「閉じ込め」が必要。（異放-3へ）

【備考】

原因となっている系統が直ちに特定できる場合は、限定したファンの停止措置を行う。
但し、GEに至るまでの時間的な余裕がない場合は、全停止を選択する。
全排風機の停止をする場合のデメリットは、建物の負圧が維持できない可能性がある。

事故収束戦略フロー		No.	異放-3
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	建物閉込め機能の維持
目的	建物の負圧が維持できなくなった場合の建物の閉込め機能維持		
目標	建物の負圧の回復又は建物の気密性の確保		

※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること

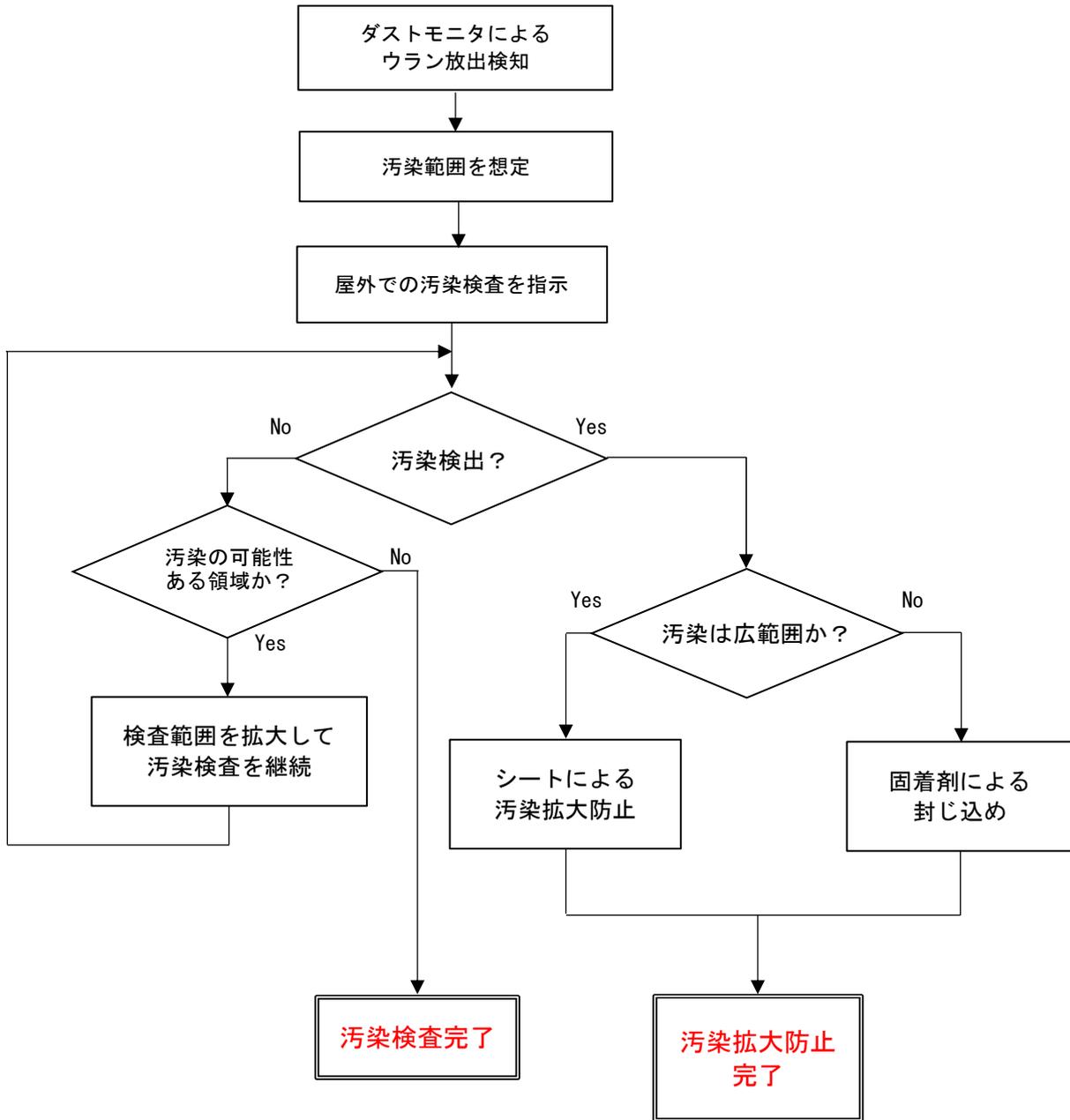


【備考】

※「建物非常扉の目張り」と「隣接する建物に通じる扉等の開放」は、同時進行で実施。「建物非常扉の目張り」より「扉開放」が短時間で終了すれば、建物に亀裂があった場合も建物の閉じ込め機能維持に有効。

事故収束戦略フロー		No.	異放-4
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	屋外での汚染拡大防止
目的	排気塔から放出されたウランによる汚染の拡大を防ぐ		
目標	屋外での地表等の汚染検査結果が検出限界未満となる		

※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること



敷地境界での環境モニタリング
 (線量、空気中濃度、汚染検査)は別途実施

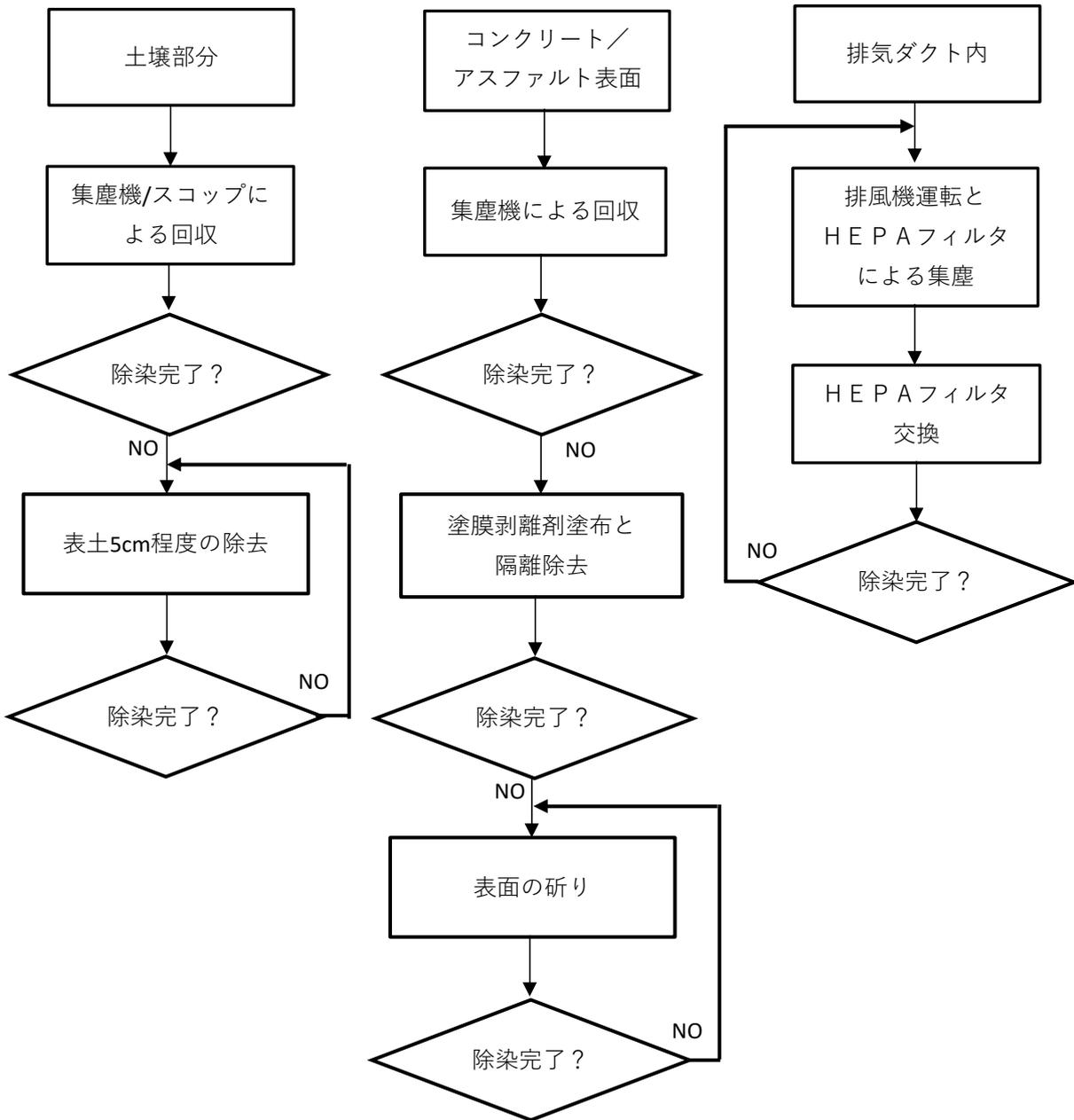
【備考】

固着剤による汚染封じ込めは、範囲が狭い汚染には有効的で、固着剤を回収することによりウランを回収できる。シートは比較的広範囲の汚染にも対応できるが、シート下のウラン回収時、汚染を拡大しないように注意が必要

事故収束戦略フロー		No.	異放-5
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	復旧
目的	事故発生前の安全な状態に復旧する計画策定		
目標	異常放出の原因を除去し当該工場の排風機を稼働させ、建物の負圧維持を復旧する		
<p>※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 放出停止 閉じ込め完了 汚染拡大防止完了 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">復旧計画の策定(実施するものに☑)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 排気塔屋上周辺汚染エリアの除染 <input type="checkbox"/> 地上汚染エリアの除染 <input type="checkbox"/> 排気塔内の汚染検査・除染 <input type="checkbox"/> 排気ダクト内の除染 <input type="checkbox"/> 損傷したHEPAフィルタの交換 <input type="checkbox"/> 工場内に漏えいしたウランの回収 <input type="checkbox"/> 当該工場内の全排気系統の健全性確認 <input type="checkbox"/> 排風機の再起動、試運転 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 復旧作業開始指示 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 復旧作業 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 目標達成(30分～)※ 目標達成(2日間) 目標達成(3日間) </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;"> ※フィルタ交換のみは概ね30分/台 ※一部停止からの復旧は概ね2日間 ※全停止からの復旧は概ね3日間 </p>			
<p>【備考】</p> <p>放出量、確認する系統数等によって復旧に要する時間は、変動する 復旧を急ぐ必要はなく、再度の放出がないことが最優先課題</p>			

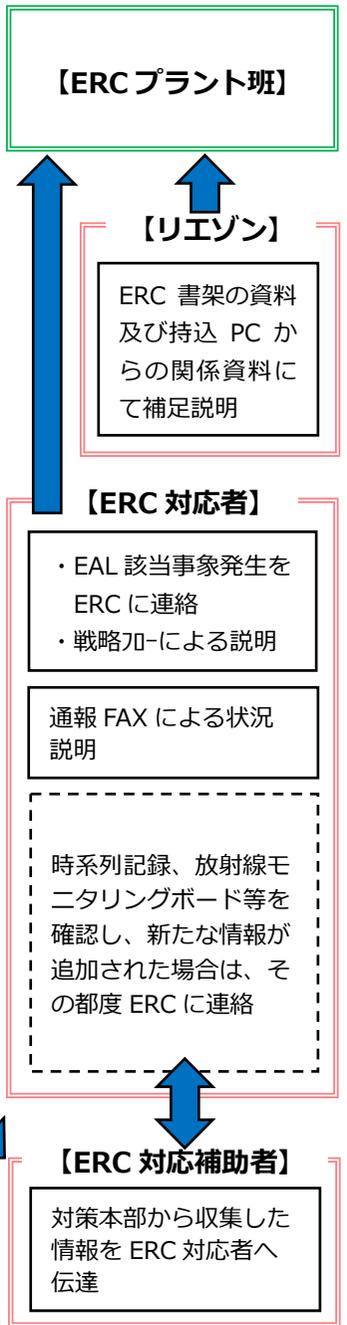
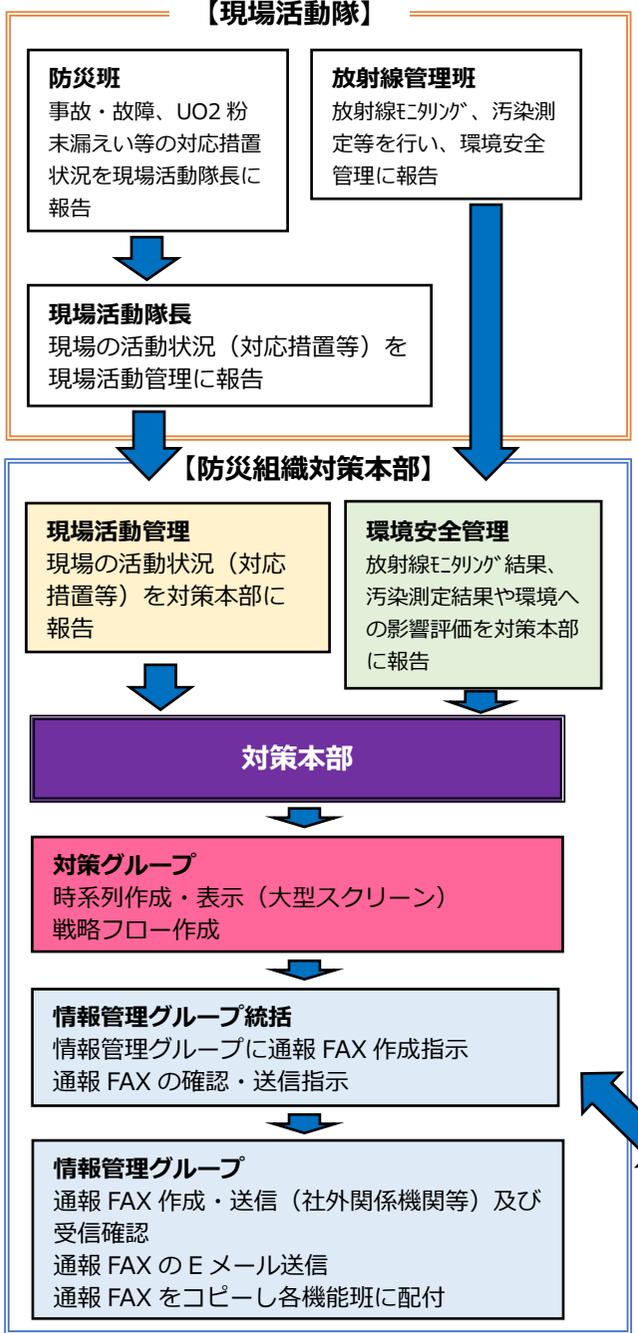
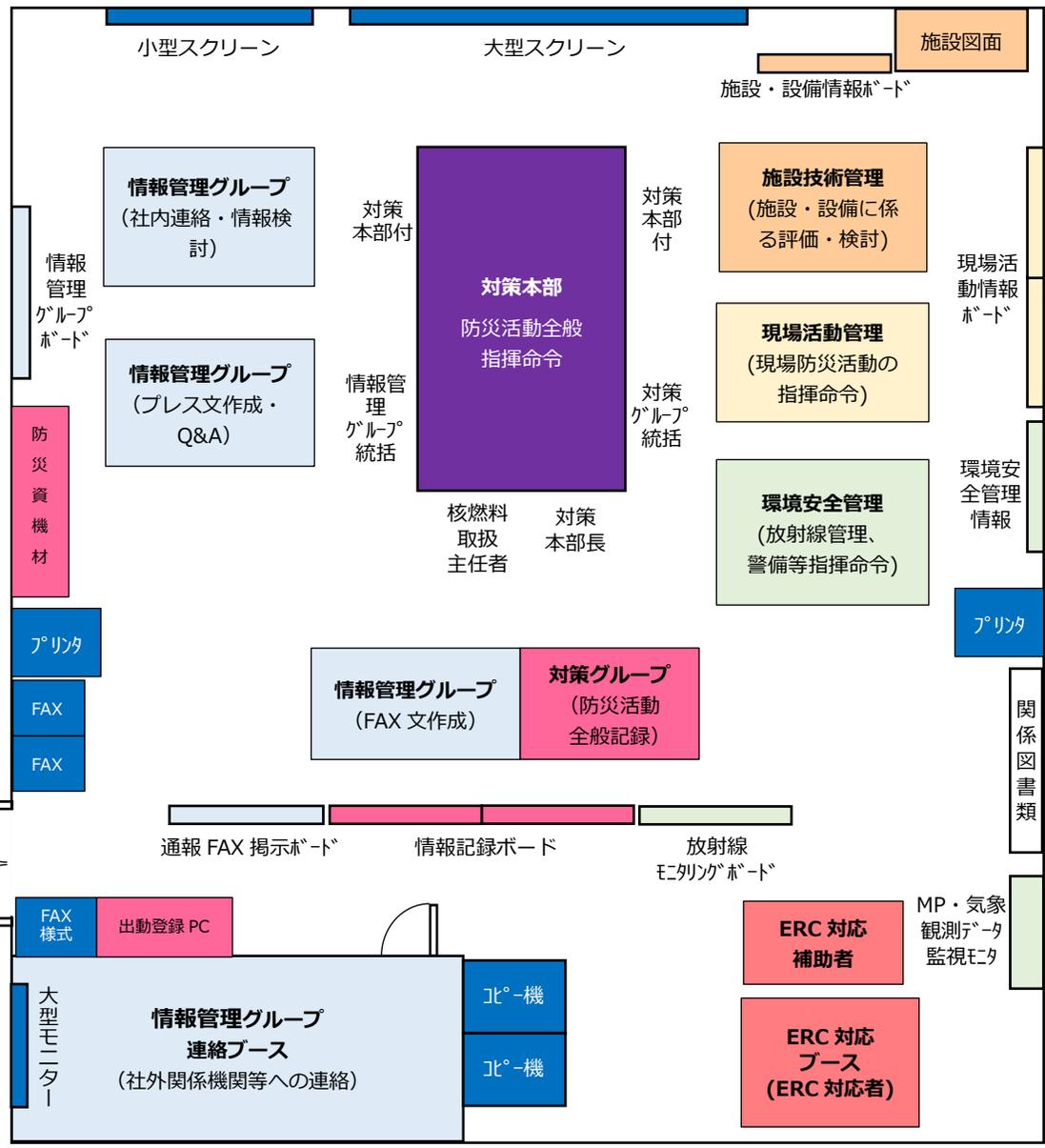
事故収束戦略フロー		No.	異放-6
事象	放射性物質の異常放出（通常経路）	戦略区分	復旧作業
目的	事故発生前の安全な状態に復旧する		
目標	汚染箇所を除染し、放射線量をB Gレベルにする		

※各段階の予想時刻（実施時刻）や状況を手書きで加えること



【備考】

- ※回収したウラン粉末は臨界管理のため、SUS缶に収納する。
- ※除染作業により発生した廃棄物は固体廃棄物として管理する。



緊急時対策所（防災ルーム）レイアウト及び情報フロー図

中期計画の目的	訓練で確認すべき訓練項目は非常に多く多岐に渡るため、単年度の防災総合訓練だけでこれらの項目についてすべてを検証し、対応能力の維持・向上につなげることは非常に困難であることから、中期的なスパン（4 年）において、段階的な対応能力の向上を目指し訓練の中期計画を策定する。
方針	<ul style="list-style-type: none"> その場限りの単独の訓練計画ではなく、中期的な展開を見据えた計画を訓練対象者に打ち出すこと、また毎年の訓練結果を共有することで、組織や要員の能力がどの程度にあるのかを各人に把握させる。 中期計画（目標）は、年度ごとの訓練の目標達成程度を評価しつつ、必要に応じて目標や訓練項目を見直す。また、訓練の都度、改善すべき課題を抽出して改善を行い、有効性を確認しながらスパイラルアップを図っていく。（訓練のPDCAの確立）

【凡例：◎重点項目 ○実施予定 △一部実施予定又は模擬 ●▲実施済み】

訓練項目等	R4 年度		R5 年度		R6 年度		R7 年度		
	要素訓練	防災総合訓練	要素訓練	防災総合訓練	要素訓練	防災総合訓練	要素訓練	防災総合訓練	
訓練項目	UF6 漏えい対応	●		●		○	○	○	◎
	消火活動	●		●	◎	○		○	○
	粉末漏えい対応		◎	●		○		○	○
	放射性物質の異常放出対応		◎		◎		◎	○	◎
	交流電源喪失	▲	△	▲	◎	○	○	△	
	可燃性ガス又は有毒ガスの発生		◎	●	○	○			○
	防災組織員の招集（参集）	●	○	●	○	○	○	○	○
	関係機関への通報連絡の実施	●	○	●	○	○	○	○	○
	ERC へのリエゾン対応（派遣）		○				○		○
	ERC との連携・情報連絡（Webex 会議）		◎	▲（社内模擬）	◎		◎		◎
	EAL 判断		◎	●	◎	○	◎	○	◎
	退避・避難誘導（点呼）等	●	△	●	△	○	△	○	○
	負傷者の被ばく測定、除染、搬送	●	○	●	○	○	○	○	○
	応急措置（汚染）拡大防止措置	●	◎	●	◎	○	○	○	◎
	漏えいした UF6 の回収					○	△	○	○
	環境モニタリング	●	◎	●	◎	○	○	○	○
	広報活動（プレス作成・模擬記者会見）	●	○	●	○	○	○	○	○
	後方支援拠点の運営	●		●	△	○	△	○	△
	資機材の調達及び輸送	●		●		○		○	
関係機関への協力要請	●	○	●	○	△	○	△	○	
訓練形態等	シナリオ非提示	△	△	△	○	△	○	△	○
	シナリオの多様化	●	○	●	◎	○	◎	◎	◎
	休日・夜間を想定	●		●	◎	○		○	
	個別教育・訓練（役割（機能班）毎の専門教育）	●	○	●	○	○	○	○	○
【防災総合訓練における主な目標】	・地震発生によるアンモニアガス漏えい事象及び放射性物質の異常放出事象が発生する。アンモニアガス漏えい事象の発生で作業着手に支障が発生する中で、正しい状況の判断及び適切な対応ができることを目標とする。 【シナリオの多様化及び難度を上げた訓練】 ①アンモニアガス漏えいに対する適切な措置 ②異常放出事象に対する正しいEAL判断 ③U汚染拡大防止策の実施と事象収束に向けた計画の策定 ④迅速な環境への影響評価		・地震発生により火災が発生し、フィルタが燃失することで、放射性物質の異常放出事象が発生する。火災と異常放出が重なった中で、正しい状況の判断及び優先度を考慮した適切な対応ができること。また、シナリオの多様化及び難度を上げた訓練として、以下の状況が発生する中で、迅速な対応措置及び環境への影響評価ができることを目標とする。 ①火災と異常放出の同時発生 ②休日設定による防災組織の出動の遅れ ③異常放出停止のための経路の損傷、劇物タンク（塩酸）からの漏えいによる有毒ガスの発生 ④消火用設備の損傷 ⑤モニタリングポスト（西側）の故障 ⑥全交流電源の喪失		・地震発生によるUF6漏えい事象の発生を想定した中で、放射性物質の異常放出事象による特定事象が発生する。多くの事象（下記）が発生する中で、正しい状況の判断及び適切な対応ができることを目標とする。【シナリオの多様化及び難度の高い訓練】 ①UF6漏えいに対する適切な措置EAL判断と措置 ②異常放出事象に対する正しいEAL判断と措置 ③全交流電源喪失した中で、ERCへの迅速な通報連絡 ④U汚染拡大防止策の実施と事象収束に向けた計画の策定 ⑤迅速な環境への影響評価		・地震発生によるUF6漏えい事象の発生による特定事象が発生する。更に放射性物質の異常放出事象による特定事象が発生する。多くの事象（下記）が発生する中で、正しい状況の判断及び適切な対応ができることを目標とする。 【シナリオの多様化及び難度の高い訓練】 ①UF6漏えいによる特定事象の発生に対する適切なEAL判断と措置 ②異常放出による特定事象発生に対する正しいEAL判断と措置 ③U汚染拡大防止策の実施と事象収束に向けた計画の策定 ④迅速な環境への影響評価		
【防災総合訓練評価】	防災組織各管理者の判断（含む EAL 判断）、指示が適切に行われ、発生事象に対する拡大防止措置から復旧計画策定まで、概ね円滑な活動が実施できた。ERC との連携に関しては、主体的な説明が不足したことから、改善を図る。								

2023年度に向けた防災活動の継続的改善

1. 継続的改善の方針

2022年度の防災総合訓練において顕在化した課題については、原因分析をした上で対応策を立案し、文書化（社内マニュアル）する。これらを使って関係者に教育を行い、要素訓練の中で実践すること等により、有効性の確認を実施する。対応策が不十分であった場合や新たに課題が見つかった場合は、更に対応策の検討、検証を進め、継続的に改善を行うものとする。2022年度の防災総合訓練での課題及び2023年度の防災総合訓練に向け実施する主な改善項目を以下に示す。

2. 2022年度の防災総合訓練（再訓練）での課題・問題点

(1) リエゾンの活動の不足

○ERC対応者に対する説明補助として2名を派遣したが、リエゾンから対策本部へ問い合わせる等、積極的な活動ができなかった。

(2) 戦略フローの機能不足

○戦略フローにより、個々の事故収束対応戦略は説明したが、現状のフローでは、全体としての対策の進捗が見える状況ではないため、これを俯瞰できるよう改善が必要である。

(3) 対策本部における方針決定・指示等の活動の不足

○対策本部における応急対策、復旧計画等の方針決定・指示等の活動が不足していた。

○10条、15条会議において、ERCから促されるまで応急対策の計画や見通しの説明ができなかった。

(4) ERCと共有すべき事項の不足

○異常発生個所や応急対策に関し、一部報告抜けがあり、体系的な説明ができなかった。

3. 2023年度の防災総合訓練に向けた改善項目

(1) リエゾンの活動の不足

リエゾンとして派遣する人数と役割分担及び情報共有手段について、再検討を行う。

(2) 戦略フローの機能不足

全体を俯瞰できるように、現戦略シートの改善、あるいはCOPによる記述を加える等改善を行う。

(3) 対策本部における方針決定・指示等の活動の不足

①対策本部は、現場からの情報によって、適切かつ確実な戦略を計画する必要があるため、情報連絡票以外にも必要に応じ、口頭による意思疎通も併用する。

②立案した戦略を整理し確実な情報共有が図れるよう、計画を立案・整理し指揮命令を担う管理者それぞれが果たすべき役割を明確にする必要があるため、関連マニュアルを見直すとともに、要素訓練を通じてその習熟度合いを検証していく。

③重要な方針を決定する場合は、必要に応じて関係者を集め、協議による意思決定と指示を行うよう周知し、要素訓練により確認を行う。

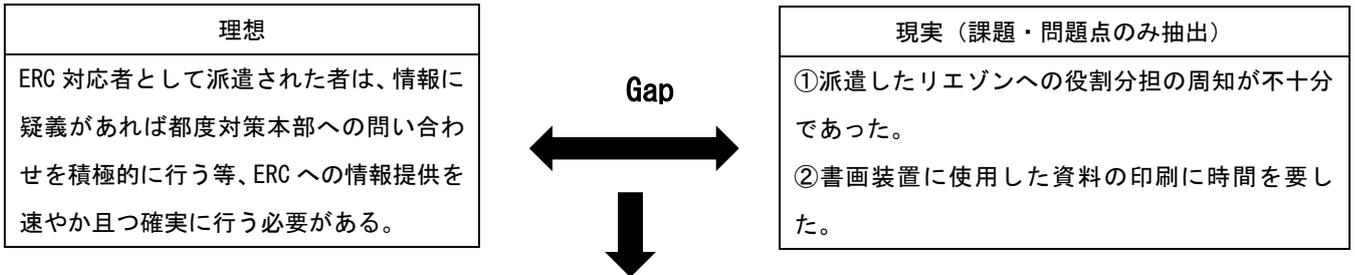
(4) ERCと共有すべき事項の不足

共有すべき観点を関係マニュアルに具体例を追記するとともに、要素訓練を実施することで、ERC対応者の練度向上を図る。

【添付資料】防災総合訓練 課題・問題点の抽出／原因分析／原因分析結果を踏まえた対策

カテゴリ	リエゾンの活動の不足
------	------------

■課題・問題点の抽出



■原因分析

なぜ1

リエゾンとしての意識	情報確認の重要性	情報機器の操作不備
リエゾンとして派遣された者が、リエゾンとしての役割を十分理解していなかった。	情報が多い中、情報に疑義があっても本部への確認を後回しとし、確認すべき事項を失念した。	ERC への資料提供時、書画装置の扱いに不慣れなため資料の出力に時間を要した。

なぜ2

リエゾンとしての意識	情報確認の重要性	情報機器の操作不備
マニュアルは整備されていたが、内容把握が不十分であった。	他の重要情報の提供を優先した。	ERC 対応職員との交流も少なく遠慮があり、装置扱いについて質問もできず、自ら解決を図った。

■原因分析結果を踏まえた対策

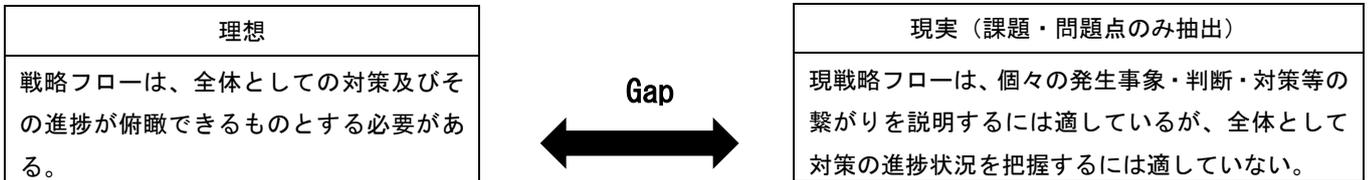
リエゾンは ERC に出向き直接情報共有を図る。リエゾンとして ERC に派遣する 3 名の主な実施事項とし役割を表に示す。ただし、各リエゾンの負荷状況に応じ、相互扶助すること。なお、ERC 内機器を使用する場合には、必要に応じて使用方法等を ERC 職員に躊躇なく確認すること。

表 リエゾンの実施事項及び役割分担

リエゾン A	リエゾン B	リエゾン C
MNF と ERC 間情報交換の助勢 ・TV 会議システムでの情報授受に対する補足説明(ERC 保管資料等を利用) ・ERC ブースでの疑義事項に対する補足説明	P ドライブでの工場側との情報のやりとり	リエゾン対応として使用する資料の印刷と ERC 各ブースへの配布

カテゴリ	戦略フローの機能不足
------	------------

■課題・問題点の抽出



■原因分析

なぜ1

戦略手順確認の容易さ	戦略予想（進捗）確認の容易さ	戦略手順の多様性
対応手順の確認が単純で理解しやすい。	事故事象に対する対応の流れの確認は容易であるが、事象の進展（進捗）を予想確認するツールではない。	対応そのものの考え方（捉え方）が単純であり、多様性（柔軟な対応）はない。

なぜ2

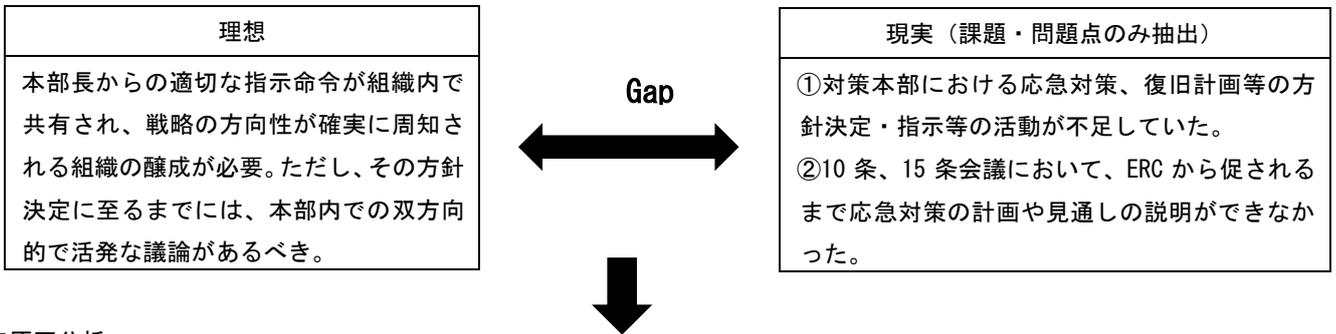
戦略手順確認の容易さ	戦略予想（進捗）確認の容易さ	戦略手順の多様性
戦略（手順）そのものを結果次第で明確に判断でき（“YES” ” NO” ）次の戦略（手順）に移行できる。	対応手順に対して、その結果を“YES” ” NO” で判断し、次の手順を決定するためのツールのため、複数のページに亘って確認していく必要があり、瞬時に多用の戦略予想（進捗）確認には適さない。	手順に対する結果で方向性が決定するため、状況に応じた柔軟多様な状況表示や、対応を求めるものではない。

■原因分析結果を踏まえた対策

全体を俯瞰できるように、現戦略シートの改善、あるいはCOPによる記述を加える等、改善を行った。

カテゴリ	対策本部における方針決定・指示等の活動の不足
------	------------------------

■課題・問題点の抽出



■原因分析

なぜ1

本部長の行動	本部長以外の防災管理者の行動	各防災管理代理者の行動
各班からの情報を確認し、対策を立案しているが、ときに対策グループからの情報が一方通行となってしまう、対策グループとの議論が少ないまま対策が実行されている。	対策グループ及び他のグループも本部長の指示を待つ傾向にあり、また、本部長への具申は控え気味の傾向がある。	各グループ間のコミュニケーションがなく、全体として先を予見する行動が不足している。

なぜ2

本部長の行動	本部長以外の防災管理者の行動	各防災管理代理者の行動
今までの経験（周りからのサポートが少ない状態）から“自身が行動しなければ”という意識が働いてしまう。	“情報連絡票”を提出すれば、本部長等の指示を待つという雰囲気が見受けられ、周りが本部長をサポートする雰囲気を醸成する必要がある。	“情報連絡票”を記載すれば、以降は上職者の指示を待つ”という雰囲気が見受けられ、下から上職者をサポートする雰囲気を醸成する必要がある。

■原因分析結果を踏まえた対策

<p>①対策本部は、現場からの情報によって、適切かつ確実な戦略を計画する必要があるため、情報連絡票以外にも必要に応じ、口頭による意思疎通も併用する。</p> <p>②立案した戦略を整理し確実な情報共有が図れるよう、計画を立案・整理し指揮命令を担う管理者それぞれが果たすべき役割を明確にするため、要素訓練で習熟度の検証を行う。</p> <p>③重要な方針を決定する場合は、必要に応じて関係者を集め協議による意思決定と指示を行うよう周知し、要素訓練により確認を行う。</p>

カテゴリ	ERCと共有すべき事項の不足
------	----------------

■課題・問題点の抽出

理想
ERC 対応者は、ERC に対し共有すべき情報を 確実かつ速やかに提供し、体系的な説明が できること。

Gap

現実（課題・問題点のみ抽出）
異常発生箇所や応急対策に関し、一部報告抜け があり、体系的な説明ができていなかった。



■原因分析

なぜ 1

情報の入手	現状把握	練度
必要な情報は入手していたが、情報 量が多く錯綜していたため、報告す べき情報の提供を失念した。	情報量が多く、個々の報告ばかりに気 を取られ、状況把握の余裕がなかつ た。	書画装置の操作に十分慣れておらず、 状況説明の妨げとなった。



なぜ 2

情報の入手	現状把握	練度
情報が錯綜する中、情報の仕分けに 不備を生じた。	状況報告を急ぐあまり体系的な状況 把握に至らなかった。	部分操作訓練は実施したが、説明と操 作を組み合わせた訓練が不足してい た。



■原因分析結果を踏まえた対策

共有すべき観点を関係マニュアルに具体例を追記するとともに、要素訓練を実施することで、ERC 対応者の練度向上を図る。
--

防災総合訓練評価シート (2024. 1. 30)
「緊急時対策所 (防災ルーム) モニタ用」

モニタ氏名: _____

※朱書きは重点項目

No.	評価項目 (※)確認できた事項について記載してください	評価 *)	備考 (気付き)
①	シナリオに関する部分であるため非公開とする		
②			
③			
④			
⑤			
⑥	FAX 文に誤りはないか。 <input type="checkbox"/> 特定事象の発生時刻 (原子力防災管理者が事象を判断した時刻) の記載 <input type="checkbox"/> 特定事象の通報は原則、法定様式 1 枚と配置図 1 枚の送付 <input type="checkbox"/> 法定様式にならった記載 <input type="checkbox"/> 誤記があった場合の修正は適切に実施されたか		
⑦	FAX 文送信のタイミングは適切か <input type="checkbox"/> 特定事象発生からの判断から 15 分以内の送付 <input type="checkbox"/> 25 条報告の適切な間隔 (概ね 30 分)		
⑧	クロノロジーの作成は過不足なく適切か。 <input type="checkbox"/> 現場からの情報の記録 <input type="checkbox"/> 本部からの指示内容の記録 <input type="checkbox"/> 本部からの指示に対する対応進捗の記録		
⑨	対策本部から現場隊員への指示は適切か。 <input type="checkbox"/> 指示内容の現場への浸透度 <input type="checkbox"/> 現場の安全を考慮した指示		
⑩	プレス文の内容は適切か。 <input type="checkbox"/> 住民が知りたい情報の提供 <input type="checkbox"/> 原子力・放射線関係用語の丁寧な説明		
⑪	プレス発表は適切か。 <input type="checkbox"/> 重要情報を優先した発話 <input type="checkbox"/> 原子力・放射線関係用語の丁寧な説明		

No.	評価項目 (※)確認できた事項について記載してください	評価 *)	備考 (気付き)
⑫	Webex による ERC との会話はスムーズに行われたか (不良の場合は、マイクやアンプ等の調整を行ったか)		
⑬	書架装置をスムーズに操作できたか		
⑭	ERC 対応発話者の説明は適切か。 <input type="checkbox"/> 時刻とセットにした発話 <input type="checkbox"/> COP を使用した説明 <input type="checkbox"/> ERC 書架にある図書の有効利用 <input type="checkbox"/> 初動時に必要な情報を FAX 文や「施設状況説明図」等で確認、ERC に適切に説明できたか <input type="checkbox"/> 優先度を考慮した情報の提供 <input type="checkbox"/> 対策本部の口頭による重要情報の共有と説明 <input type="checkbox"/> 放射線トレンドデータによる事象進展予測 <input type="checkbox"/> 対策グループへの回答の照会		
⑮	シナリオに関する部分であるため非公開とする		
⑯	ERC 対応者の役割分担は適切に実施されたか <input type="checkbox"/> 主発話者：状況報告対応 <input type="checkbox"/> 副発話者：質問対応 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー (SV)：俯瞰的観点からの情報整理、情報の重要度区分と重要情報の伝達等 <input type="checkbox"/> SV は ERC 対応者に誤りがあった場合、適切に修正できたか <input type="checkbox"/> SV から ERC 対応補助者へ必要に応じ助言がなされたか		
⑰	ERC 対応補助者の役割分担は適切に実施されたか <input type="checkbox"/> 2 名：必要図面収集、ERC 質問の対策 G への照会、回答入手 <input type="checkbox"/> 2 名：書画装置にて説明資料等 ERC への FAX 送信と着信確認 <input type="checkbox"/> 1 名：使用書類の整理 (含む受付トレイの整理)		FAX 各報着信確認は連絡班とする。
⑱	ERC 対応補助者の対応は適切か <input type="checkbox"/> 発話者からの照会に対する処置が適切か <input type="checkbox"/> Webex 会議で使用した資料の ERC への FAX 送信、着信確認 <input type="checkbox"/> 発話者への迅速な情報提供はできたか		
⑲	10 条確認会議、15 条認定会議は適切に対応できたか。 <input type="checkbox"/> EAL 判断の根拠 <input type="checkbox"/> 事象進展予測 <input type="checkbox"/> 事故収束対応		

No.	評価項目 (※)確認できた事項について記載してください	評価 *)	備考 (気付き)
【その他自由記述】			

*) ○ : 良好 △ : 概ね良好 × : 改善が必要 — : 評価対象外 (確認できなかった)
 (⇒備考欄に詳細記載)

ご協力いただきありがとうございました。

防災総合訓練評価シート (2024.1.30)
「成型工場建屋内 モニタ用」

モニタ氏名 : _____

※朱書きは重点項目

No.	評価項目 (※)確認できた事項について記載してください	評価 *)	備考 (気付き)
①	シナリオに関する部分であるため非公開とする		
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			

【その他 自由記述】

*) ○ : 良好 △ : 概ね良好 × : 改善が必要 - : 評価対象外 (確認できなかった)

(⇒備考欄に詳細記載)

ご協力いただきありがとうございました。

防災総合訓練評価シート (2024. 1. 30)

「屋外活動 モニタ用」

モニタ氏名: _____

※朱書きは重点項目

No.	評価項目 (※)確認できた事項について記載してください	評価	備考 (気付き)
①	シナリオに関する部分であるため非公開とする		
②			
③			
④			
⑤			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			

⑩

【その他 自由記述】

*) ○ : 良好 △ : 概ね良好 × : 改善が必要 - : 評価対象外 (確認できなかった)

(⇒備考欄に詳細記載)

ご協力いただきありがとうございました。